

みのかも文化の森 年報 平成16年度



目 次

常設展示	1
常設展示室・生活体験館・民具展示館・保存竪穴住居（6 7 号住居址）	
企画展	3
特別展示	8
市民参画	1 3
みのかも文化の森ボランティア	1 6
教育普及	2 1
虫害対策	2 4
学校活用の理念と現状	2 5
教育センター	2 8
施設の利用状況	3 0
来館者アンケート	3 2
広報活動の記録	3 4
みのかも文化の森/市民ミュージアム5年の歩み	3 8
組織図	4 0
利用案内	4 0

◆はじめに

めざそうとしているもの

みのかも文化の森は、2000年10月にオープンし、5年目を迎えました。今、改めてこの施設がどんなことをめざして設置されたかを考えてみたいと思います。次の4つです。

①自然との共存

「みのかも文化の森」には、9ヘクタールの敷地に里山として豊かな森があります。この森と、その「たたずまい」を、子どもも大人も「体感」できる場でありたいと考えています。人が自然から学ぶことの大事さ、得られるものの大きさを改めて考えてみたいと思います。

②学校教育との連携

「みのかも文化の森」は自然の中に立地し、地域の文化的、歴史的資料が収集展示されている施設です。学芸員やボランティアなど人的資源も備えています。そのような素材や条件を生かし、様々な体験学習や深まりのある学習が可能となります。モノからそして人から学んだ子どもたちが、将来文化を支える人々になることを願っています。

③市民参画

「みのかも文化の森」では、ボランティアの皆さんをはじめとして多くの市民の方々が森の活動を支えます。館の事業への協力や参加にとどまらず、自由な発想と自発的な気持ちで活動に参加する、そんな協働しておこなう新しい取り組みや企画は館の新しい力となって次へつながっていきます。

④地域づくり

「みのかも文化の森」は、いわゆる「博物館」や「教育・文化」といった限られた枠にとらわれず、ふだんの生活の一部として利用され、地域の様々な人々の交流の場となることを目指しています。活動を通して「文化力」を徐々に蓄積し、社会的存在として地域の中で機能していかなければならないと思います。

設立までに十数年という長い準備期間のなかで煮詰められたこの理念は、今も基本的には変わりません。日常の業務の中でなんとなくではありますが、こんなことをいつも意識しながら活動を進めていかなければと思っています。

施設の業務評価というものは、この設立理念にどれだけ近づけているかが第一のポイントだと考えています。5年目を迎えた今、次の5年そして10年20年先の姿はどうあるべきか、設立理念を基本に社会の状況を見極めて中長期計画を立て、達成すべき具体的指標を立てて取り組んでいきたいと思っています。

◆常設展示

常設展示室

この地域の自然、歴史そして文化について「川とみちと人」をメインテーマに分かりやすく展示しています。さらに、美濃加茂市で生まれた坪内逍遙や津田左右吉等の業績や人柄を紹介しています。

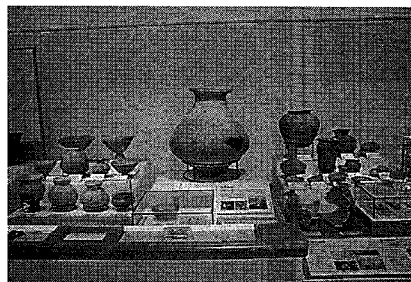
＜川と大地＞カニサイ

およそ、1900 万年前のキロテリウム（通称カニサイ）と呼ばれる大型哺乳動物の足跡化石が木曽川河床からみつかりました。この可動する復元模型や周辺の地層を構成する岩石類を観察することができます。



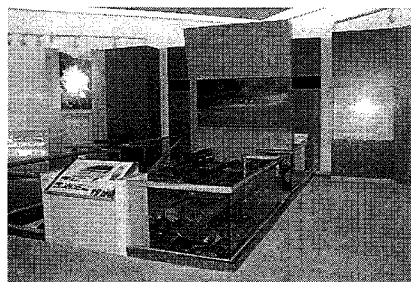
＜川と文化＞川のほとりで生きた人々

美濃加茂市内の各遺跡から出土したものを中心に展示しています。旧石器時代から中世に暮らした人々の姿がよみがえります。川とともに暮らした人々、その生活の一端に注目しています。



＜川と道＞イカダ流し

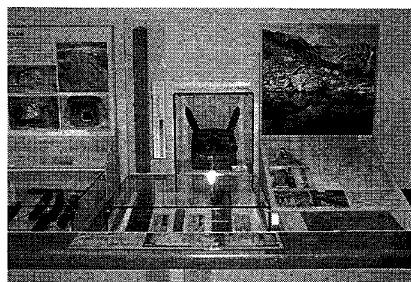
地理的、歴史的に交通の要衝であった美濃加茂を紹介しています。江戸時代初頭には五街道の一つである中山道において、難所である太田の渡しを控えた重要な宿場町として栄えていました。また、河川を利用した木材運搬の歴史は古く、この地域は、イカダの中継地点としての役割をになっていました。展示室では、イカダを復元製作して川下りを体感できるようになっており、関連資料と併せて展示しています。



＜祈りの世界＞モノへの祈り・神々への祈り

人々は、「いのり」を目にみえる形に現そうと試み、たくさんのモノを作ってきました。市内の遺跡からは、各時代の人々の「ころ」がこめられたものが出土しています。

この地域に暮らした人々の精神生活に関係した資料や出土した縄文～古墳時代の装飾品などを展示しています。



＜群像美濃加茂＞みのかもの先人たち

明治・大正・昭和を通して近代日本文学界や演劇において、先駆的、革新的な役割をはたした坪内逍遙や日本の歴史を実証的、科学的な研究によって世界的水準に導いた津田左右吉の業績や愛用した遺品、二人の交流などを示した資料が展示されています。また、その他の先人についても紹介しています。



＜最新資料紹介展示＞

第3回坪内逍遙大賞受賞者 加藤道子資料紹介

平成16年度に加藤家から加藤道子さんと父精一さんの資料を寄付していただきました。道子さんの資料にはラジオドラマ草創期からの貴重な資料や「日曜名作座」の台本が数多くあり、これらの資料を展示しています。

また、父の精一さんの貴重な資料も同時に展示紹介しました。



生活体験館（まゆの家）

生活体験館は、明治時代後期に建てられた美濃加茂市内の民家を復元した建物で、養蚕と密接に結びついた生活の様子を随所に見ることができます。

まゆの家や付属施設となる体験工房では、来館者の見学の他、企画展や学校の学習利用、「機織り」や「四季を食べる講座」をはじめ、草木染めなどの「くらし体験講座」や年中行事、まゆの家まつりなど様々な活動が行われています。



民具展示館

民具展示館は、養蚕や蜂屋柿、農耕などに関する道具を展示・収蔵する施設です。

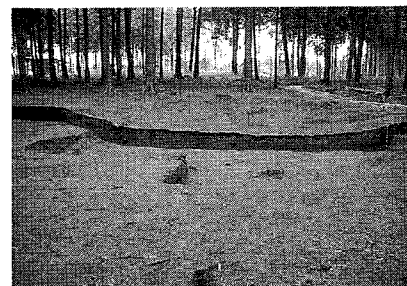
展示部分では、養蚕・蜂屋柿・農耕及び畑作・生活資料1930（昭和5年の資料）などがあります。この展示室では、パソコンで道具の使い方の解説なども行っており、学校の学習での利用も想定しています。



保存竪穴住居（67号住居址）

文化の森の敷地内からは、130軒を超える竪穴住居址が発見されました。それらは主に弥生時代～古墳時代にかけて営まれたムラの様子を伝えています。そのうち、古墳時代後期のいくつかは、土が埋まりきっておらず、くぼんだ姿をとどめていました。とても珍しいものです。

発掘された住居は、そのままではしだいに崩れていきます。そこで、67号住居址については、薬剤によって保存処理を行い、覆屋を設置しました。発見された当時の状態をよくとどめています。



◆企画展

「土に残る記憶Ⅱ-縄文と弥生-」展

(1) 趣 旨

縄文時代（今から1万3000年前頃）に入るとそれまでの旧石器時代とは大きく変わりました。気候が暖かくなってきたことで、環境が変わり、人々の生活も変化したのです。

彼らは「土器」や「弓矢」を発明し、暮らしよい家のづくりや生活の方法を模索していきます。展覧会では、岐阜県内の遺跡に彼らが残してくれた多くのものに注目しました。

また、岐阜県で発見された貴重な弥生時代の出土品などもあわせて展示しました。そして、学校の学習活動とも連携しつつ、出土品などを手でさわったり、遊ぶことのできるコーナーや様々な体験講座などを行うことができました。

(2) 会 期 2004（平成16）年4月29日（木）～5月30日（日）＜27日間＞

(3) 観 覧 料 一般200円（100円）、中学生以下無料

（ ）は20名以上の団体料金及び、かるちすとくらぶ料金

(4) 会 場 企画展示室

(5) 関連事業

①ミュージアムトーク

（2004（平成16）年5月1日（土）・5月16日（日）11：00～12：00・14：00～15：00/会場：企画展示室/参加料 企画展観覧料）

②体験講座

「つくってみよう・つかってみよう－縄文人体験－」

（2004（平成16）年5月2日（日）13：00～16：00/会場：実習棟テラスほか/参加料 無料）

③ミュージアムツアー

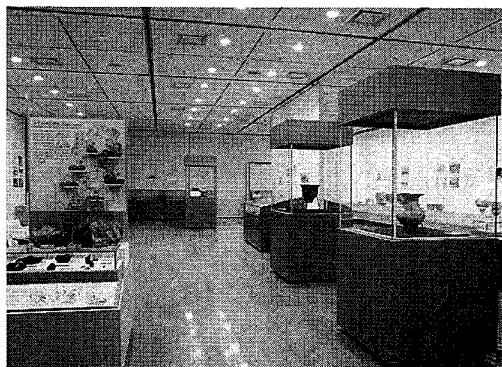
「いってみよう－石器の材料をさがす－」

（2004（平成16）年5月8日（土）12：30～16：00/会場：白川町ほか/参加料 無料）

④アートな1日講座

「縄文の土器作り」

（2004（平成16）年5月23日（日）13：00～16：00/会場：工芸室/参加料 無料）



第24回岐阜県移動美術館「19世紀西洋版画 幻想の世界」展

(1) 趣 旨

岐阜県美術館は、1982年の開館以来、絵画、彫刻、工芸の分野で、美術史上重要な作家の作品を収蔵しています。その中で、収集の中心であるオディロン・ルドン（1840～1916）は現在およそ250点に達しており質、量ともに世界有数のコレクションとなっています。

この展覧会では、美術館所蔵の名品から、ウジェーヌ・ドラクロワ、シャルル・メリヨン、ロドルフ・プレスダン、アンリ・ファンタン＝ラトゥール、オディロン・ルドン、マックス・クリンガー、エドヴァルト・ムンクの作品を紹介いたしました。

人間心理の神秘を描いた、想像力あふれる西洋版画の幻想の世界を展覧しました。

〔主催〕美濃加茂市民ミュージアム、岐阜県美術館

(2) 会 期 2004（平成16）年6月12日（土）～7月19日（月）＜32日間＞

(3) 観 覧 料 一般300円（200円）、小中学生150円（100円）

（ ）は20名以上の団体料金及び、かるちすくらぶ料金

(4) 会 場 企画展示室・美術工芸展示室

(5) 展示点数 岐阜県美術館所蔵品75点

ウジェーヌ・ドラクロワ	18点
シャルル・メリヨン	9点
ロドルフ・プレスダン	10点
アンリ・ファンタン＝ラトゥール	10点
オディロン・ルドン	16点
マックス・クリンガー	10点
エドヴァルト・ムンク	2点

(6) 関連事業

①ミュージアムフォーラム 「ルドンと19世紀西洋版画」

講師 山本敦子氏（岐阜県美術館学芸員）

（2004（平成16）年6月20日（日）14：00～15：30

会場：緑のホール/参加料 無料）

②アートな1日講座「インスタントリトグラフ」

（2004（平成16）年6月27日（日）13：00～16：00/会場：工芸室/参加料 500円）



「まちの観察日記」展

(1) 趣 旨

現代社会の風俗を研究し、分析・解説しようとする学問を考現学といいます。

考現学では、フィールドワークなどを通し、まちをぐるぐると見て歩き、看板や民家の軒先にあるもの、人のしぐさや服装など、日常のありふれた事物やあたりまえの事物にスポットをあて、いろいろな角度から観察して現代人の日常生活を研究します。すると、人の性質であるとか暮らしの知恵やくふうであるとか、意外なことが発見できます。

この「まちの観察日記」展では、野外活動研究会（代表：岡本信也氏）による研究成果の展示発表、名古屋芸術大学ライフスタイルデザインコースが美濃加茂市内をフィールドワークした成果の展示発表、市民や研究者などによるフィールドカードの展示が行われました。

(2) 会 期 2004（平成16）年7月28日（水）～8月28日（土）＜27日間＞

(3) 観 覧 料 一般 300円（200円）、小中学生 150円（100円）

（ ）は20名以上の団体料金及び、かるちすくらぶ料金

(4) 会 場 企画展示室・美術工芸展示室・エントランスホール・展示ホール

(5) 展示点数 400点

(6) 関連事業

①ワークショップ「まちを探検しよう」

（2004（平成16）年7月4日（日）10:30～15:00/会場：美濃加茂市太田町/参加料 100円）

②夏休み子ども講座「まちを探検しよう」

（2004（平成16）年8月8日（日）10:30～15:00/会場：美濃加茂市太田町/参加料 100円）

③ミュージアムトーク 出品者による「わたしの観察日記」

（2004（平成16）年8月1日（日）・8月22日（日）13:00～14:00/会場：企画展示室・美術工芸室/参加料 企画展入場料）

④ミュージアムフォーラムⅠ 対談「おどろくココロ」

出演 岡本信也氏（野外活動研究会）・齊藤基生氏（名古屋女子大学講師）

（2004（平成16）年8月1日（日）14:00～15:30/会場：緑のホール/参加料 無料）

⑤ミュージアムフォーラムⅡ 対談「まちなかで見つけるライフスタイル」

出演 佐藤英治氏・佐宗圭子氏

武谷直子氏（野外活動研究会）

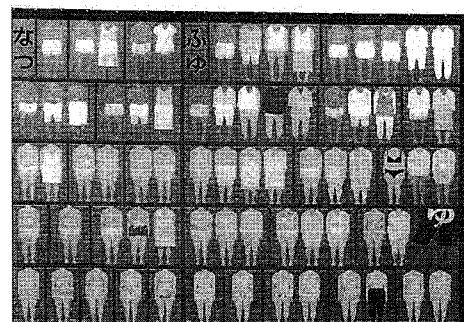
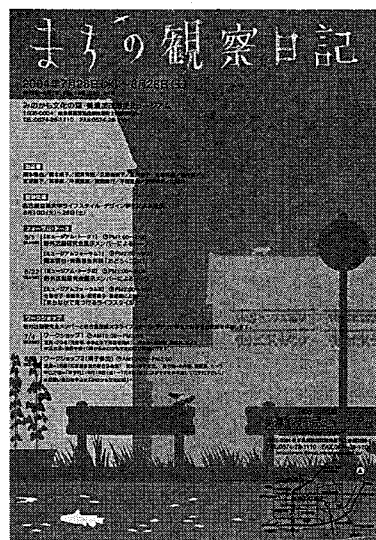
萩原 周氏（名古屋芸術大学講師）

（2004（平成16）年8月22日（日）

14:00～15:30/会場：緑のホール/参加料 無料）

(7) 図 録 『まちの観察日記』

A5変型判 73頁 700円



「親子で遊ぶ 木とのふれあいワールド パート2」展

(1) 趣 旨

当館は、緑豊かな森の中にあります。森の中では、四季を通じて森の豊かな恵みを体験できるような講座や学習活動を展開しています。一方、私たちは太古の時代から森の中で生活し、木々に囲まれた暮らしをしてきました。家を建てる建築材や生活調度品をはじめ、祭事や宗教行事などの品々にいたるまで木を利用し、また素材を生かしながら目的にあった使用をしてきました。しかし、現在では木材製品よりも安価で扱いやすいプラスチックなどの人工製品が多くなり、それにともない子どもたちの周囲にも森や木々が減ってきています。

今回の展覧会では、来場者が木で作られた展示品を見て、遊び、考えることで、生活と共にあった木の道具、木を利用した人々の知恵にふれることができる機会を設けました。



[主 催] 美濃加茂市民ミュージアム、朝日新聞社名古屋本社

(2) 会 期 2004 (平成16) 年 9 月 17 日 (金) ～10 月 24 日 (日) <32 日間>

(3) 観 覧 料 一般300円 (200円)、中学生以下 無料
() は20名以上の団体料金及び、かるちすとくらぶ料金

(4) 会 場 企画展示室・美術工芸展示室・エントランスホール

(5) 展示点数 約300点

(6) 関連行事

①子ども造形ワークショップ「きって、うって、ふしぎなキー木で生きものなどをつくる」

のこぎりや金づちの使い方になれながら、木片を組み合わせてふしぎな生き物などをつくりました。講師 辻 泰秀氏 (岐阜大学教育学部助教授)

(2004 (平成16) 年 9 月 18 日 (土) 10:00～15:00/会場: 工芸室/参加料 100円)

②子ども造形ワークショップ「ころころ がたがた たのしいキー木の動くおもちゃをつくる」

木片をくっつけたりしながら、動くおもちゃをつくりました。

講師 辻 泰秀氏 (岐阜大学教育学部助教授)

(2004 (平成16) 年 9 月 19 日 (日) 10:00～15:00/会場: 工芸室/参加料 100円)

③ミュージアムシアター「トントンギコギコ 図工の時間」

ドキュメンタリー映画「こどもの時間」の第2弾。東京のある小学校に通う子どもたちの図工の時間の様子を映画にしたものです。(上映時間99分)

(2004 (平成16) 年10月9日 (土) ①13:30～ ②18:30～ /会場: 緑のホール/観覧料 大人500円
中学生以下 無料)

④ミュージアムフォーラム「木の力、人の技」

再生可能な資源である木を素材にして、「ものづくり」を続けてきました。自然との調和をうまくはかりながら、木の持つ力を未来にどのように伝えていけばよいのかを、参加者と共に考える機会としました。

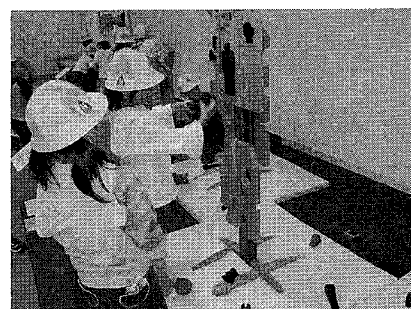
講師 稲本 正氏 (オークヴィレッジ代表、工芸家)

(2004 (平成16) 年10月24日 (日) 14:00～15:30/会場: 緑のホール/参加料 500円)

(7) 巡回会場共通パンフレット

「親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2」

A2変形判 9頁



「刻^{とき}—環流 眞板雅文」展

(1) 趣 旨

100年を超える歴史を持つ国際展「ヴェネチア・ビエンナーレ」に日本代表で二度選ばれるなど、国内外で幅広く活躍している彫刻家・眞板雅文氏（1944～中国・撫順生まれ）を迎え、展覧会を開催しました。あわせて文化の森内のアトリエに眞板氏が滞在しながら、芝生広場において竹を中心に森の素材を使った公開制作が行われました。



また、養蚕民家を復元した生活体験館「まゆの家」においては、“正月”をテーマに竹などを用いて、床の間や庭が飾られました。

(2) 会 期 2004(平成16)年12月10日(金)～2005(平成17)年1月23日(日)＜32日間＞

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 美術工芸展示室ほか

(5) 展示点数 石、ブロンズの彫刻5点と写真パネル(美術工芸展示室)

(6) 関連事業

①アートな1日講座「作家と遊ぼう」－眞板雅文氏と森の素材を使ってまゆの家を飾る－

(2005(平成17)年1月9日(日)13:00～15:30/会場:生活体験館(まゆの家)/参加料 300円)

②「作家と語る(トークとスライド)」－眞板雅文氏が作品について語る－

(2005(平成17)年1月10日(月)13:30～14:30/会場:美術工芸展示室/参加料 無料)

「地域ゆかりの作家 小林文一」展

(1) 趣 旨

小林文一氏は、日展を舞台に数々の独創的な作品を制作しています。1975(昭和50)年の日展において特選を受賞し、1956(昭和31)年の日展初入選以降、入賞入選は35回を数えます。

また、長年にわたり多くの後進の指導に力を入れるなど、美濃の陶芸界を支える重要な役割を果たし続けています。

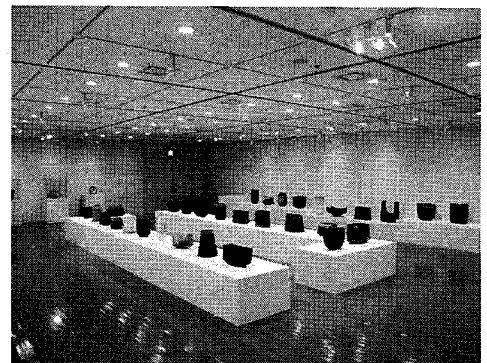
この展覧会では、小林文一氏の作陶活動50年間に亘る集大成の数々を展示いたしました。

(2) 会 期 2005(平成17)年3月26日(土)～4月10日(日)＜14日間＞

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 企画展示室

(5) 展示点数 56点



◆特別展示

平成16年度中に開催した展覧会の中で、企画展以外の展示を紹介いたします。

蚕とまゆ展04

(1) 趣 旨

美濃加茂市は古くより養蚕が盛んな地域です。本展では、養蚕の様子を再現しながら、そのために使用された道具や、郡是製糸や小山観音など、美濃加茂市と養蚕の関わりを紹介しました。

(2) 会 期 2004（平成16）年6月23日（水）～8月15日（日）＜46日間＞

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 生活体験館「まゆの家」

(5) 展示点数 30点

(6) 関連行事

①「真綿づくり体験」

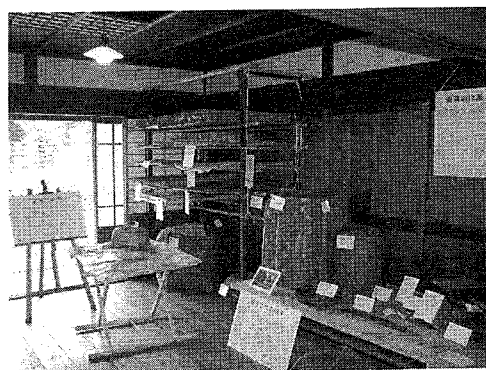
（2004（平成16）年7月24日（土）10：00～12：00/

会場：生活体験館「まゆの家」/参加料 200円）

玉まゆから真綿をつくり、真綿から糸をつむいで、昔の製糸を体験しました。

②「カイコの不思議たんけん」

（2004（平成16）年7月28日（水）10：00～12：00/会場：岐阜県生物産業技術研究所・市内養蚕農家/参加料 無料）



第49回美濃加茂市美術展

(1) 趣 旨

美術との身近なふれあいの場として、文化の発展のために市内外から広く作品を公募し、一般に公開することを目的としています。

(2) 会 期 2004（平成16）年11月20日（土）～11月28日（日）＜9日間＞

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 企画展示室・美術工芸展示室・エントランスホール・展示ホール

(5) 応募点数 325点（日本画、洋画、彫刻・彫塑・工芸、書、写真の5部門）



暮らしカル道具展 05

(1) 趣 旨

かつての暮らしで実際に使われていた道具をとおして、人々が培った知恵や生活の苦労などを知ります。本展では、はかる道具を中心にとりあげました。

(2) 会 期 2005（平成17）年1月12日（水）～2月13日（日）＜28日間＞

(3) 観 覧 料 無料

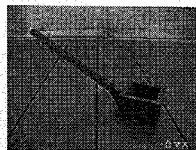
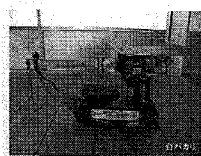
(4) 会 場 生活体験館「まゆの家」

(5) 資料点数 30点

(6) 関連講座 「達人講座」

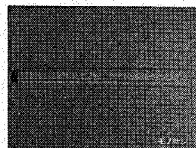
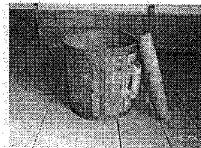
（2005（平成17）年1月12日（水）13:30～15:30/会場：生活体験館「まゆの家」
参加料 無料）

文化の森認定の「民具の達人」が、まゆから糸を引き出す技を披露しました。



暮らしカル道具展05

～重さをはかる、体積をはかる、長さをはかる～



と き

2005年1月12日（水）～2月13日（日）
9:00～16:00
休館日 1月17日、21日、25日、31日、2月7日

ところ

みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム
生活体験館（まゆの家）

入場無料

暮らし体験講座

達人講座

文化の森認定の「民具の達人」が、まゆから糸を引き出す技を披露します。

と き 2005年1月12日（水）

13:30～15:30

ところ 生活体験館（まゆの家）

定員 自由

みのかも文化の森
美濃加茂市民ミュージアム

〒505-2024 岐阜県美濃加茂市神倉町上藤原319-1
TEL 0574-25-1139 FAX 0574-25-1124

◆市制50周年事業

1. 坪内逍遙大賞10周年記念事業

(1) 趣 旨

逍遙博士の功績をたたえ、市民文化の向上をはかるため、平成6年度に「坪内逍遙大賞」を制定しました。大賞は、平成15年度に第10回となり、本年度は10回の歩みを記念して、「坪内ミキ子のトークサロン」を開催いたしました。

(2) 日 時 2004（平成16）年5月26日（水）13:00～17:00

(3) 会 場 オリベホール（東京都港区六本木
ラピロス六本木内）

(4) 後 援 財団法人 逍遙協会

(5) 内 容 「トークサロン」

- 進 行 坪内ミキ子
- ゲスト 篠田正浩・岩下志麻夫妻
- みのかも「声のドラマ」の会による朗読
(連城三紀彦・「夏の影」)
- みのかも特産品抽選会
- 「デザートビュッフェ」来場者に岐阜県
産食材を使った軽食等を提供

(6) 参 加 者 174人

毎年賞典展覧会開会50周年記念事業・坪内逍遙大賞10周年記念事業

特別企画

坪内ミキ子のトークサロン

と き：平成16年5月26日(水) と ころ：ラピロス六本木3階「オリベホール」
定 員：200名
会 費：5,000円

ゲスト
篠田正浩さん(早稲田大学特命教授)・岩下志麻さん(女優)




要 料：12時～ 第一部 トークサロン
13時～ 第二部 朗読「声のドラマ」の会「夏の影」
15時～ 第三部 抽選会「みのかも」特産品抽選会
17時～ 第四部 デザートビュッフェ・岐阜県産食材利用

お申し込み
アソコオフィス内「坪内ミキ子のトークサロン」事務局
〒106-0031 東京都港区六本木3-4-6
TEL 03-5561-7800 FAX 03-5561-7802

受付時間 12時～16時
※お申し込みは先着順とさせていただきます。
※お申し込みいただいた方から抽選で10名の方に、抽選で、お礼の品をご用意いたします。
※お申し込みいただいた方から抽選で10名の方に、抽選で、お礼の品をご用意いたします。

協賛 岐阜県
後援 財団法人 逍遙協会

2. 「情熱の人・坪内逍遙」展（没後70年記念展）

(1) 趣 旨

逍遙の文芸への情熱をテーマに、その生い立ちから文芸復興にかける逍遙の業績を紹介しました。

江戸時代の風雅な情緒と明治・大正期の革新的な創造力によって、文学・演劇界を導いてきました。演劇人逍遙の成り立ちとその活動、影響力を紹介することができました。また、逍遙自身や森鷗外と逍遙の原稿。ガラスケース内に展示した絵看板は大変迫力があり、人の目をひきました。貸本屋大惣関係の資料（貸本、馬琴の書、印鑑関係など）やDVDで逍遙の動く姿や声を実際に知ることができました。この展示会を通じてあらためて逍遙の業績を顕彰することができました。

(2) 会 期 2005（平成17）年2月5日（土）～3月21日（月）＜38日間＞

(3) 観 覧 料 一般 200円（100円）中学生以下 100円（50円）
() は20名以上の団体料金及びかるちすくらぶ料金

(4) 会 場 企画展示室・美術工芸展示室

(5) 展示点数 約200点

(6) 関連事業

①ミュージアムイベント「逍遙ゆかりの地めぐり・名古屋」



講師 林 和利氏 (名古屋女子大学教授)

(2005 (平成17) 年 2 月 27 日 (日) 9:30~16:30/会場:名古屋市内/参加料 2,500円)

②ミュージアムフォーラム「演劇にかけた逍遙の情熱」

講師 菊池 明氏 (逍遙協会理事)

(2005 (平成17) 年 3 月 13 日 (日) 13:00~14:00/会場:緑のホール/入場料 無料)

③朗読「霊験」

出演 劇団近代座

(2005 (平成17) 年 3 月 13 日 (日) 14:15~16:00/場所:緑のホール/入場料 無料)

(7) 図 録 「情熱の人 坪内逍遙」展 A4判 64頁 800円

3. 博学連携フォーラム

(1) 趣 旨

「総合的な学習の時間」の調べ学習での来館、社会や理科の体験学習での来館、学芸員の出前講座や博物館への来館など博物館と学校がつながりをもつことがふえてきています。当館は、開館前から学校の授業を博物館で行うことを念頭に施設の整備や学習活用プログラムの検討・開発を教員とともに進めてきました。当館での学校活用の様子、全国の博物館の学校との連携、活動状況を考える機会を設けました。

(1) 日 時 2004 (平成16) 年10月19日 (火)・20日 (水)

<第1日目>

14:00~16:00 基調講演「博物館と学校の連携・協働をめぐって」

廣瀬隆人氏 (宇都宮大学生涯学習教育研究センター教授)

<第2日目>

9:00~12:00 文化の森活動発表

授業公開:美濃加茂市立山手小学校4年生

社会科「郷土の偉人 太郎洞池の学習」

実践報告:文化の森活用委員会委員・学習支援ボランティア・
学芸係・学習係

13:00~16:00 博物館・美術館の実践報告・全体討議

実践報告:山本伸一氏 (浦安市郷土博物館)

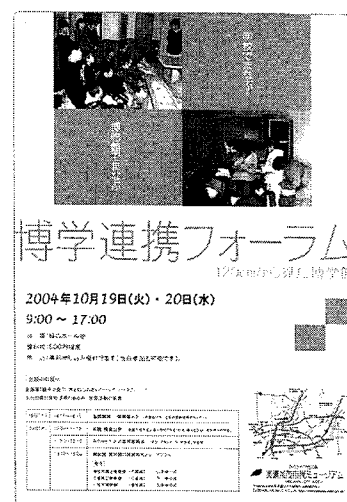
下 栄子氏 (三重県立美術館)

久保禎子氏 (一宮市博物館)

全体討議:山本伸一氏・下 栄子氏・久保禎子氏

美濃加茂市立蜂屋小学校長 安藤志郎氏 (コーディネイター)

二村尋子 (文化の森学習係長)



(2) 場 所 緑のホール

(3) 参 加 者 のべ200名

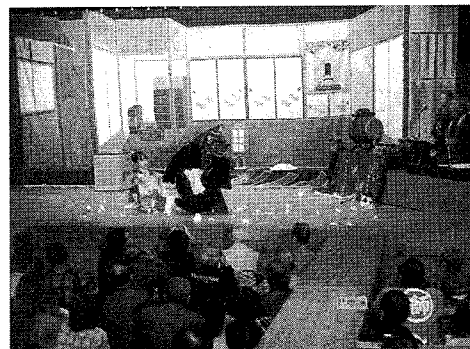
4. 第4回岐阜県獅子芝居協議会の公演

(1) 趣 旨

県内4市町の獅子芝居保存会からなる協議会が中心となり、民俗芸能文化保存事業の一環として、市制50周年を機に広く市民に民俗芸能のすばらしさを知っていただくことを目的として開催しました。

(1) 日 時 2004 (平成16) 年11月23日 (祝)

- (2) 場 所 日本昭和村
 (3) 出演者 7 団体 (約200名)
 (4) 来 場 者 約1000名



5. 「写真で見る美濃加茂市 50 年史」 冊子作成

美濃加茂市が市制50周年という節目の時に、文化の森ではたくさんの資料を整理しました。その中には数々の写真があり、写された人物や建物・まわりの景色などから当時の様子がよくわかります。写真がいかに貴重な資料であるかを改めて認識し、50年の歩みを経年ごとに章立てしてまとめました。写真や年表を使って資料的価値の高いものとししました。

2004 (平成16) 年11月 1 日発行 A 4 判 53 頁 500 円



◆市民参画

みのかも文化の森/美濃加茂市民ミュージアムは、その理念に「市民参加を中心に考える」を挙げています。ここでは、「市民が主人公となり、自由な発想と自発的な活動」で計画・実施された催しを紹介します。

(1) 森のコンサート

①春のコンサート (フォルクローレ)

と き 2004 (平成16) 年4月24日 (土) 1回目・11:00～ 2回目・14:00～

ところ エントランスホール

入場料 無料

入場者 約500名

演 奏 名古屋大学フォルクローレ同好会

内 容 今年で3回目のフォルクローレコンサートを開催しました。春の日差しの中、多くの人たちに楽しんでいただきました。

また、JRさわやかウォークのコースとして、みのかも文化にたくさんの方が来館され、コンサートを楽しみながら休息をとられる姿が見られました。



②サマーナイトコンサート (ジャズ)

と き 2004 (平成16) 年8月7日 (土) 19:30～

ところ エントランスホール

入場料 無料

入場者 約100名

演 奏 東バンド

内 容 夏の夜を、ジャズの音色で楽しんでいただこうとサマーナイトコンサートとして開催しました。あいにくの雷雨にもかかわらず多くの方が来館され「とても良かった。嵐の中、来ましたが、とても楽しい時が過ごせました。」などの感想をいただき夏の夜の一時を楽しんでいただきました。



③クリスマスコンサート (フルート)

と き 2004 (平成16) 年12月18日 (土) 15:00～

ところ エントランスホール

入場料 無料

入場者 約200名

演 奏 杉浦 隆 (フルート) 篠塚紗也香 (チェロ)
木須康一 (ピアノ)

内 容 200名ほどの方が来館され、エントランスに響きわたるフルートの調べに「最近、コンサートに行っていないので、心の栄養になりました。素敵な1時間でした。また聞きたい」・「森のコンサートに初めてきました。素敵な3人の生演奏良かったです。優しい音色で優しい気持ちになりました。」など、感想をいただきました。



④ニューイヤーコンサート（マリンバ）

と き 2005（平成17）年1月29日（土）14:00～

ところ エントランスホール

入場料 無料

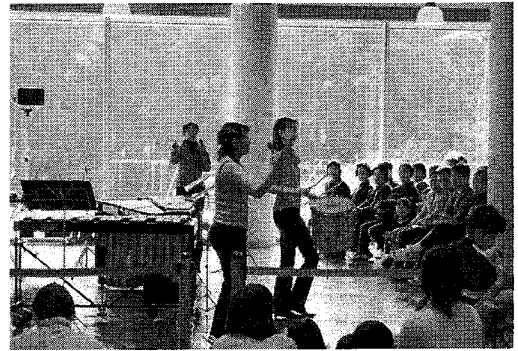
入場者 約230名

演 奏 マリンバデュオ *serre*

和泉麻里（マリンバ）

平林明美（マリンバ・ビブラホーン）

久米樹慈（MC）



内 容 豊田市美術館でおこなわれた「マリンバと木のぬくもり」コンサートを機に、マリンバデュオ「*serre*」（セレ）を結成し各種演奏会で活躍している二人を招いてコンサートを行いました。「本日、とても楽しい演奏会でした。子供も大人も参加でき一緒にリズムを取って子供が喜んでいました。」「とても楽しいひとときを過ごすことができ感謝しています。参加型も一体となって良いことだと思います。」など感想をいただきました。

（2）春・朗読の一日

と き 2004（平成16）年5月4日（水）10:00～16:30

ところ 緑のホール・実習棟テラス・生活体験館

来場者 約600名

出 演 市内外の49グループ 157名

内 容 「実行委員会」（代表：高野春廣氏）に委託して実施。文化の森の2会場において自由なスタイルで朗読を行いました。あいにくの雨だった春の一日、来場者は各会場に足を運び、朗読の世界を楽しみました。

また、終演後出演者の交流会が生活体験館において行われ、情報交換などにより親睦を深めました。

（3）森の朗読会

と き 2004（平成16）年4月17日（土）「あんず森のどろぼう」・「夜桜」ほか
2004（平成16）年5月15日（土）「舌ざわり」・「青年のお礼」ほか
2004（平成16）年6月19日（土）「最後の一葉」・「遺り櫛」ほか
2004（平成16）年7月20日（土）「せんそう」・「月がのぼるまえに」ほか
2004（平成16）年8月21日（土）「ほたる」・「夏のクリスマスツリー」ほか
2004（平成16）年9月18日（土）「空中喫煙者」・「おにのめん」ほか
2004（平成16）年10月16日（土）「ある夜、ある街で」・「家賃」ほか
2004（平成16）年12月18日（土）「デューク」・「箏笛」・「先輩」ほか
2005（平成17）年1月15日（土）「ばらいろの雲」・「風婆んば」ほか
2005（平成17）年2月19日（土）「悪筆」・「ねこはしる」ほか
2005（平成17）年3月19日（土）「きいちゃん」・「出来ます」ほか

ところ 緑のホール

内 容 11月を除く毎月第3土曜日の午後（14:00～15:00）みのかも「声のドラマ」の会のメンバーによる朗読会が行われました。出演は会所属のグループで、童話・エッセイ・小説などを題材に、思い思いの朗読を上演しました。

(4) 第5回まゆの家まつり

と き 2004 (平成16) 年10月30日 (土)、31日 (日) 各日10:00～15:00

ところ 生活体験館

主 催 まゆの家まつり実行委員会

(生活体験ボランティア、伝承料理の会、学習支援ボランティア)

参加料 無料

参加者 約600名

内 容 本年第5回目を迎えるまゆの家まつりは、文化の森のボランティアのみなさんによる、ちょっと昔のくらしをみる、あそぶ、たべるを体験し楽しくすごしました。

(5) 朗読フェスティバル

と き 2004 (平成16) 年12月4日 (土)、5日 (日)

ところ 緑のホール

出演など 出演119名、来場者延べ600名

内 容 第3回 (平成8年度) 坪内逍遙大賞受賞者、加藤道子氏の朗読講座を機に、みのかも「声のドラマ」の会 (代表: 森優美子氏) が発足して「美濃加茂を朗読のまちに」と活動し、朗読講座 (指導: 放送表現教育センター) などを行っています。受講生は学んだ成果の発表会として実施し、あわせて、指導していただいた講師による朗読も行われました。



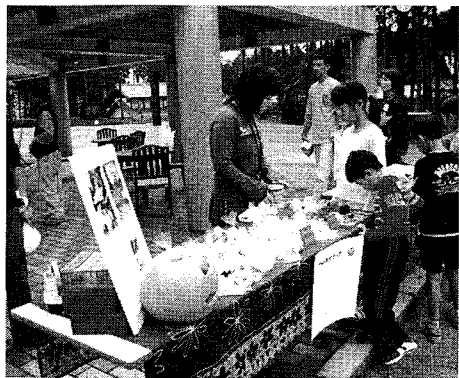
(6) フリーマーケット

と き 2004 (平成16) 年10月31日 (日) 10:00～15:00

ところ 実習棟テラス・工芸室

内 容 文化の森の講座から生まれたサークルやボランティアが、自分たちの作品の販売と体験制作 (有料) を行ったり普段の活動の成果を観覧していただきました。

作 品 陶芸・つる細工・草木染め ほか



(7) アートボランティア ビデオ上映会

と き 2004 (平成16) 年11月21日 (日)

「アンディ・ウォーホル」14:00～15:30

(同時上映「世界・美の旅ルノワール」①10:00～②11:00～)

ところ 緑のホール

内 容 美濃加茂市美術展の会期にあわせて開催しました。

午前は、印象派の巨匠ルノワールのビデオ、午後は世界的ポップアーティストであるアンディ・ウォーホルのドキュメンタリー作品を上映しました。

第4回ゴールデンアート劇場

ANDY WARHOL

アンディ・ウォーホル
ビデオ上映会 (上映時間79分) 入場無料

場所/みのかも文化の森 緑のホール

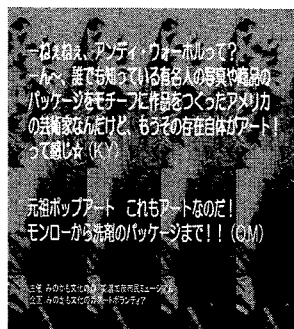
2004年11月21日 (日)

14:00～15:30 (13:30開場)

同時上映「世界・美の旅 ルノワール」

①10:00～10:30

②11:00～11:30



◆みのかも文化の森ボランティア

みのかも文化の森では、2000年10月のオープン当初から、多くの方々がボランティア活動をしています。「文化の森で何かしたい」という想いを持ったボランティアの活動は、来館者と文化の森をつなぐ重要なパイプであり、文化の森の大きな特徴になっています。

1. 目的

- ①文化の森と来館者および地域の人々との橋渡しの役割を果たしてもらい、より親しまれる文化の森とするため。
- ②多様な経験や技術、柔軟な発想などを文化の森の事業や運営に生かし、利用者のサービスを充実していくため。
- ③市民の皆さんの自発的な学習の場と社会還元の場として文化の森を有効に利用してもらうため。

2. 各ボランティアの活動内容

- ・展示ガイド・・・主に、常設展示室内で展示の解説やイベントの企画・運営などを行います。
- ・アート・・・文化の森の講座のお手伝いや自主企画のイベントを行います。
- ・生活体験・・・生活体験館（まゆの家）・民具展示館の解説や、講座やイベントでの講師・お手伝いを行います。
- ・学習支援・・・児童・生徒が文化の森で学習する際にお手伝いをします。
- ・伝承料理の会・・・生活体験館のクドを使い、「四季を食べる講座」でこの地域に伝わる料理を教えています。この地域に伝わる料理の研究もしています。
- ・イベント・・・「森のコンサート」など文化の森で行うイベントを中心にお手伝いをします。

※基本的には、ボランティアの方々の都合の良い時に活動していただいています。

3. その他

資格 18才以上ならどなたでも。経験、性別、市民か否かは問いません。

報酬 無償です。

特典 みのかも文化の森が主催する研修（他館の視察や見学会）に参加できます。

企画展等へ団体料金で入場ができます。

活動中、万一の事故に備え、市の負担でボランティア保険に加入いたします。

4. 世話人会と広報紙「つぶらじい」編集委員会

各分野の中で2人ずつ世話人を選出します。6つの分野の世話人と文化の森の職員とで世話人会を構成し、文化の森が召集し、その時の議題について話し合いをします。

また、各分野から1名ずつ広報編集委員を選出し、3ヶ月に一回程度のボランティア広報紙「つぶらじい」を発行しています。

5. 研 修

ボランティアとして活動するにあたり、必要な知識や経験を学んでいただくために研修会を行います。ボランティア登録したすべての方を対象とした全体研修と個々の分野の、より専門的な知識・経験を得るための個別研修があります。平成16年度中に開催した研修は下記の通りです。

（1）全体研修

- ①2004（平成16）年4月29日、5月7日 第1回 企画展解説会

企画展「土に残る記憶Ⅱ－縄文と弥生－」展の展示解説

- ②2004（平成16）年4月25日 新規ボランティア説明会

文化の森のボランティアに関心のある人に、ボランティアの活動内容や研修について説明、質疑

応答。

③2004（平成16）年6月12日 第1回 世話人会

平成16年度の世話人の顔合わせ、昨年度・今年度の事業報告。

④2004（平成16）年6月16日、20日 第2回 企画展研修会

「第24回岐阜県移動美術館 19世紀西洋版画 幻想の世界」展の展示解説会とミュージアムフォーラムに参加。

⑤2004（平成16）年6月26日 ボランティア交流会

伝承料理の会のみなさんが四季を食べる講座で作っている「利休まんじゅう」を料理し、試食しながら、手回し蓄音機コンサートを開催。

⑥2004（平成16）年8月1日、4日 第3回 企画展研修会

「まちの観察日記」展の展示解説会とミュージアムフォーラムに参加。

⑦2004（平成16）年8月24日 第4回 ボランティア研修会

「第一印象を大切に」をテーマに、コミュニケーションの取り方について研修。

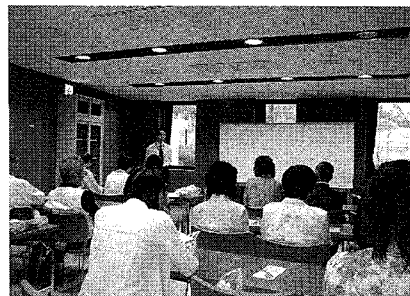
⑧2004（平成16）年9月24日、10月3日 第5回 他館見学研修会

I. 9/24 パラミタミュージアム（三重県）

パラミタミュージアムは、池田満寿夫の陶彫をはじめとする多彩なコレクションを所有。併設のパラミタガーデンでは、鈴鹿に植生する山野草を見ることができ、当日は、モノクロームの画家と呼ばれた「浅野弥衛（あさのやえ）」の展示を見学。

II. 10/3 アクアトト・ぎふ（岐阜県川島町）

木曽川三川・長良川の源流から河口まで生息する生き物を中心に紹介している施設を見学。



⑨2004（平成16）年10月9日、19～20日、24日 第6回 ミュージアムフォーラム研修会

I. 10/9 ミュージアムシアター「トントンゴゴゴ図工の時間」ドキュメンタリー映画「こどもの時間」の第2弾を鑑賞。

II. 10/19～20 博学連携フォーラム

全国の先進的取り組みを行っている博物館・美術館での学校連携活動の事例、美濃加茂市民ミュージアムでの学校活用の様子を発表。これらを通して、これからの博物館・美術館と学校教育の関係連携のあり方について検討。



III. 10/24 ミュージアムフォーラム「木の力、人の技」

再生可能な資源である木を素材にして、「ものづくり」を続けてきた。自然との調和をうまくはかりながら、木の持つ力を未来にどのように伝えていけば良いのかについての講演。

⑩2004（平成16）年12月14日 第7回 企画展研修会

「刻一環流 眞板雅文展」の展示解説。

⑪2004（平成16）年12月12日 第8回 研修会

美濃加茂市文化会館で開催された「テアトル ダンス ポエジー 川面に浮かぶ子守歌」を参観。

⑫2005（平成17）年2月5日 第9回 企画展研修会

美濃加茂市文化会館で開催された「林 隆三と楽しむ賢治童話の世界」への参観。

⑬2005（平成17）年2月10日、2月12日

第10回 企画展研修会

「情熱の人 坪内逍遙」展の展示解説。

⑭2005（平成17）年3月26日 第2回世話人会

1年間の活動の報告と意見交流。

(2) 個別研修・会議など

□展示ガイド

4/10	企画展関連イベント：ミュージアムツアー現地確認（白川町島）
5/ 2	企画展関連イベント：縄文人体験講座サポート
5/ 8	企画展関連イベント：ミュージアムツアー開催（白川町島）
6/19	定例会
7/10	定例会（三和町史跡研修）
8/21	定例会（岐阜県博物館展示見学）
9/11	定例会（逍遙ゆかりの地研修 太田町）
10/21	定例会（坪内逍遙展に向けての取り組みについて）
12/25	企画展：坪内逍遙展のための勉強会・資料作成
1/22	企画展：坪内逍遙に関する講義
2/12	企画展：坪内逍遙展ボランティア研修・打合せ
2/18	企画展：坪内逍遙展ガイド向け説明会
2/27	企画展関連イベント：逍遙ゆかりの地めぐり（名古屋）

□アート

4/11	みのかもフィールドワーク（「まちの観察日記展」のワークショップ）
4/13	アートボランティア定例会（第43回）
4/25	アートな1日講座「モザイクタイルアート」のサポート
5/11	アートボランティア定例会（第44回）
5/23	野外彫刻清掃（文化の森）
6/ 8	アートボランティア定例会（第45回）
6/27	アートな1日講座「インスタントリトグラフ」のサポート
7/ 5	「まちの観察日記展」ワークショップ
7/13	アートボランティア定例会（第46回）
7/25	アートな1日講座「Tシャツプリント」のサポート
8/ 8	「まちの観察日記展」ワークショップ
8/25	野外彫刻清掃（前平公園）
8/31	アートボランティア定例会（第47回）
9/14	アートボランティア定例会（第48回）
9/19	野外彫刻清掃（大手町公園）
9/24	フリーマーケットの作品づくり
10/ 5	アートボランティア定例会（第49回）
10/ 6	ビデオ上映会のポスター・DMづくり
10/24	野外彫刻清掃（文化会館）
10/30	フリーマーケット準備
10/31	まゆの家まつりフリーマーケット

11/ 9	アートボランティア定例会（第50回）
11/21	第4回アートボランティア企画ビデオ上映会「アンディ・ウォーホル」
11/24	野外彫刻清掃（太田公民館）
12/ 5	アートな1日講座「高畠純さんとカレンダーをつくろう」のサポート
12/8～12/15	「眞板雅文展」公開制作サポート
12/14	アートボランティア定例会（第51回）
12/23	野外彫刻清掃（木曽川スポット公園）
1/ 9	アートな1日講座「作家とあそぼう」のサポート
1/18	アートボランティア定例会（第52回）
2/ 8	アートボランティア定例会（第53回）
3/ 8	アートボランティア定例会（第54回）
3/27	アートな1日講座「陶芸(手びねり又はろくろ)」のサポート

□生活体験

4/ 9	生活体験ボランティア運営委員会（4・5月の活動について）
5/14	生活体験ボランティア運営委員会（ボランティア交流会について） 生活体験ボランティア全体会（年間事業計画について）
6/11	生活体験ボランティア運営委員会（蚕とまゆ展準備について）
7/ 9	生活体験ボランティア運営委員会（7・8月の活動について）
8/17	生活体験ボランティア運営委員会（8・9月の活動について）
9/ 3	生活体験ボランティア運営委員会（まゆの家まつりについて）
10/ 1	生活体験ボランティア全体会（まゆの家まつりについて）
11/12	生活体験ボランティア運営委員会（11・12月の活動について）
12/10	生活体験ボランティア運営委員会（暮ラシカル道具展準備について）
1/ 6	生活体験ボランティア運営委員会（1・2月の活動について）
2/15	生活体験ボランティア運営委員会（2・3月の活動について）
3/11	生活体験ボランティア運営委員会（世話人推薦と来年度事業計画について）

□学習支援

4/ 9	学習支援ボランティア顔合わせ会
6/18	「森の音づくり講座」 相談会
9/ 3	「森の音づくり講座」 準備会
9/11～9/12	「森の音づくり講座」 (1)10:30～、(2)13:30～
12/10	「科学の祭典」にて学習支援ボランティア・学習系のブースを準備

※平日の学校活用での活動は、含まない。

□伝承料理の会

4/15	ぶんたこ(4/18実施)リハーサル
5/ 8	川辺町子ども会調理体験(5/23実施)打合せ
5/ 9	そば打ち(5/16実施)リハーサル
5/11	16年度第1回班長会

5/21	朴葉餅（6/1実施）リハーサル
6/11	利休まんじゅう（6/20実施）リハーサル
6/30	そうめん料理（7/6実施）リハーサル
7/ 9	みょうが寿司（7/18実施）リハーサル
7/21	しいたけ料理（8/3実施）リハーサル
7/30	梅料理（8/15実施）リハーサル
9/29	第2回班長会
9/30	豆料理（10/5実施）リハーサル
10/29	まゆの家まつり（10/30～31実施）準備「五平餅たれづくり」
11/ 9	手作りこんにゃく（11/21実施）リハーサル
11/26	おせち料理（12/7実施）リハーサル
12/ 2	第3回班長会
12/19	ブラジル友の会（1/8実施）打合せ
1/12	手作り豆腐（1/16実施）リハーサル
1/14	教育センター研修講座（1/22実施）打合せ
1/18	ぎんなんおこわ（2/1実施）リハーサル
2/ 8	じねんじょ（3/8実施）リハーサル
2/10	ひなあられ、粕汁（2/20実施）リハーサル
2/10	手作り豆腐やり直し
3/ 9	総会 研修

※学校活用、文化の森以外が主催する研修講座等での講師としての活動は含まない。

□イベント（森のコンサート）

4/24	春のコンサート（フォルクローレ）
8/ 7	サマーコンサート（ジャズ）
12/18	クリスマスコンサート（フルート）
1/29	ニューイヤーコンサート（マリンバ・デュオ）

6. 平成16年度の最終登録数

	展示ガイド	アート	生活体験	学習支援	伝承料理	イベント
平成16年度	12	18	40	31	45	5
全体のべ	151名					

※平成16年度の登録人数は、最終の人数です。登録人数は、142名。

◆教育普及

1. 各種講座

(1) 『定期講座』

美濃加茂市民ミュージアムでは、事前に受講生を募集して継続的に行う各種講座を開講しています。それらは、市民ミュージアムの特色を生かした内容となっています。

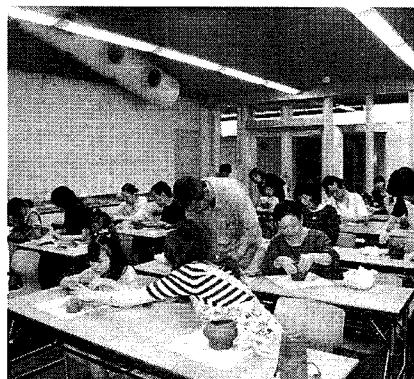
平成16年度開講の定期講座は、「美術品鑑賞入門（洋画）」「機織り」「能講座」「朗読講座（声のドラマ第8期生）」「カラーを知る講座Ⅱ」の計5講座です。

名 称	開催日	回数	受講者
美術品鑑賞入門講座（洋画）	6月9日～	5	17人
機織り講座（初級の1）	5月12日～	5	5人
機織り講座（初級の2）	9月22日～	5	5人
能講座	5月18日～	4	24人
朗読講座（声のドラマ（8期生））	6月18日～	6	20人
カラーを知る講座Ⅱ	2月10日～	4	16人

(2) 『アートな1日講座』

市民ミュージアムに当日訪れた来館者が、気軽に美術関連の体験を行うことができる講座です。当館には、陶芸制作に伴う各種施設やフィールドとしての森に恵まれており、それらに関連したものや企画展とタイアップさせた内容で開催しています。

名 称	開催日	受講者
モザイクタイルアート	4月25日	32人
縄文土器づくり	5月23日	26人
インスタントリトグラフ	6月27日	26人
オリジナルTシャツづくり	7月25日	13人
陶芸（手びねり+ろくろ）	8月22日	17人
七宝焼き	9月26日	22人
陶芸（絵付け）	10月10日	4人
お菓子でつくるクリスマス	11月28日	15人
高島純とカレンダーづくり	12月5日	60人
作家と遊ぼう（眞板雅文）	1月9日	16人
まゆびな	2月27日	31人
陶芸（手びねり+ろくろ）	3月27日	31人



(3) 『森と暮らしの体験講座』

① 「四季を食べる講座」

市民ミュージアムで活動するボランティアである「伝承料理の会」と共に、この地域で伝統的に伝わる四季折々の料理を作って、食べる体験をする講座です。

「伝承料理の会」と一緒に作り、語り合いながら食をとおして昔の暮らしを学びます。

名 称	内 容	開 催 日	受 講 者
四季を食べる①	ぶんだこ（草餅）	4月18日	24人
四季を食べる②	山菜ごはん	5月11日	13人
四季を食べる③	手打ちそば	5月16日	21人
四季を食べる④	朴葉餅	6月 1日	36人
四季を食べる⑤	利休まんじゅう	6月20日	29人
四季を食べる⑥	そうめん料理	7月 6日	8人
四季を食べる⑦	ミョウガ寿司	7月18日	19人
四季を食べる⑧	しいたけ料理	8月 3日	11人
四季を食べる⑨	梅料理	8月15日	7人
四季を食べる⑩	おはぎ	9月 7日	17人
四季を食べる⑪	栗おこわ	9月19日	17人
四季を食べる⑫	豆料理	10月 5日	19人
四季を食べる⑬	へぼご飯	11月 2日	17人
四季を食べる⑭	手作りこんにゃく	11月21日	20人
四季を食べる⑮	おせち料理	12月 7日	18人
四季を食べる⑯	もちつき	12月19日	15人
四季を食べる⑰	手作り豆腐	1月16日	21人
四季を食べる⑱	ぎんなんおこわ・粕汁	2月 1日	5人
四季を食べる⑲	ひなあられ	2月20日	15人
四季を食べる⑳	ひな菓子作り・がんどうち	2月26日	9人
四季を食べる㉑	じねんじょ・むかご	3月 7日	16人

②「くらし体験講座」

かつては、どこの家庭でも行われていた、昔懐かしい日常の1コマを再現します。生活体験館（まゆの家）を中心として、参加者と生活体験ボランティアが一緒になって体験活動するものです。

名 称	内 容	開 催 日	受 講 者
くらし体験①	季節を染める①	4月24日	20人
くらし体験②	お茶摘み体験講座	5月 2日	22人
くらし体験③	真綿づくり体験	7月24日	7人
くらし体験④	カイコの不思議たんけん	7月28日	27人
くらし体験⑤	季節を染める②	8月28日	22人
くらし体験⑥	季節を染める③	10月23日	17人
くらし体験⑦	季節を染める④	12月 4日	14人
くらし体験⑧	ミニ門松づくり	12月18日	22人
くらし体験⑨	たこづくり	1月 8日	13人
くらし体験⑩	達人講座	1月12日	25人

③「生活体験館（まゆの家）年中行事」

私たちの暮らしは、一年のうちで決まった時期に行われる儀式や催し物によって季節が意識されています。まゆの家でも来館者と共に行っています。

名 称	開 催 日
鯉のぼり立て	4月24日～ 5月 5日
七夕かざり	6月28日～ 7月 7日
年末の準備、門松作り	12月18日～ 1月 9日
鏡開き	1月 9日
節分	2月 3日
ひなかざり	2月中旬 ～ 3月 3日

④「もりもりクラブ」

小学生を対象とした森の管理や里山の暮らしの知恵を体験しながら学習する講座です。

講師：みのかも森と林の会

名 称	開催日	受講者
竹林の伐採作業	6月 6日	19人
下草刈り	8月16日	16人
竹とうろう作り	9月19日	20人
どんぐり集め	10月17日	30人
落ち葉集め	12月 5日	24人
炭焼き体験	2月 6日	20人
シイタケの原木作り	3月 6日	20人

⑤「自然観察教室」

文化の森とその周辺には、たくさんの自然が残されています。そこで生きる草花や昆虫、動植物達の活動に目を向ける講座です。

名 称	内 容	開催日	受講者
食べられる野草	文化の森周辺で、食べられる野草と薬草を観察	4月18日	23人
地層や化石を探ろう	木曽川河畔にある蜂屋累層の化石調べ	8月 8日	7人
虫の音を聞く会	身近な虫の音の違いを聞き分ける	8月29日	4人
秋の植物観察	秋に咲く花を中心に観察	9月23日	13人
野鳥観察会	冬の朝、木曽川へ越冬のため訪れる冬鳥を中心に観察	12月12日	18人

(4) 『ミュージアムトーク』

自然、考古、歴史等の各分野から構成される常設展示室の解説を来館者に対して行うものです。一方向の説明ではなく、参加者の疑問に答えながら進めて行きます。定期的に行うものと団体見学时に行うものがあります。日本語だけではなく、外国語でも行いました。

2. 夏休み子ども講座

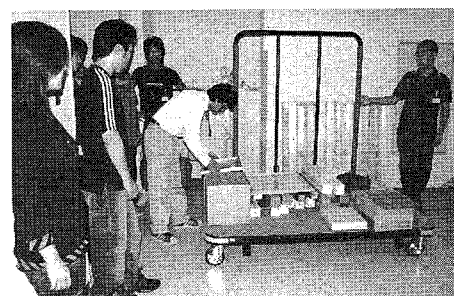
市民の方が地域の歴史や自然、文化に目を向け、次世代に受け継がれていくことを願うという観点から、児童・生徒が夏期休暇の期間中に親子参加型の講座を企画しました。全ての講座は、当館を活動の場としています。

名 称	内 容	開 催 日	受講者
ナイトサファリ①	トラップ（わな）を使って昆虫などの夜の活動を観察	7月22日	24人
ナイトサファリ②		7月23日	13人
まちを探検しよう	市内にて考現学採集し、整理・発表する。	8月 8日	10人
こども1日学芸員	資料の調査・整理体験	8月 5日	7人
こどもそば打ち体験	こねる、のばす、切る	8月 7日	14人
川の生き物観察	魚や水生昆虫などを捕まえて、川浦川の生態について調べる	8月18日	18人

3. 博物館実習

博物館において、資料の収集、保存、展示及び調査研究その他、これと関連する事業についての専門的事項を司る職員が学芸員です。学芸員資格は、国による資格試験もしくは大学で必要な単位を修得することによって取得することができますが、博物館学芸員養成課程をもつ各大学の要請により、下記のとおり実習を実施しました。

- ・期 間 2004(平成16)年8月25日(水)～8月29日(日) 9:00～16:00
- ・受入人員 15名
- ・実習内容



日 程	午 前	午 後
8/25(水)	オリエンテーション・館内見学	学芸員と博物館の仕事、屋外彫刻の整備
8/26(木)	収蔵庫の環境と管理	考古資料の整理、保存住居の整備
8/27(金)	民具資料の整理と燻蒸作業	博物館と学校の関わり、博物館のもつ情報
8/28(土)	図書資料と図録の作成、博物館とボランティア	展示と展覧会の進め方、実習生からみた文化の森資料作成①
8/29(日)	博物館資料の取り扱いと整理	実習生からみた文化の森資料作成②及び発表会、実習レポートの作成

◆虫害対策

①資料等の燻蒸

収集した資料は、原則として一時保管場所へ搬入し、燻蒸後、収蔵庫に搬入します。

《移動燻蒸車で資料燻蒸》

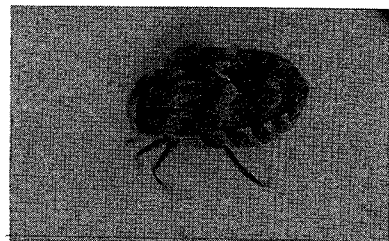
燻蒸施設のない当館では、毎年専門業者へ委託して実施しています。移動燻蒸車の容量は約82.8立方メートル。薬剤はヨウ化メチル、フッ化スルフルル等を使用。平成16年度は2回行いました。

《民具展示館・民具収蔵庫の燻蒸》

展示室や収蔵庫への出入りなどにもない、害虫などが侵入します。資料に適する環境を保つために、燻蒸を行います。平成16年度は民具展示館・民具収蔵庫の防虫作業を1回行いました。薬剤は、シフェノトリンを使用しました。

②モニタリング

専門業者によるモニタリング調査を行っています。展示室、収蔵庫等、館内数ヶ所に粘着トラップを設置し、春夏の2回調査を行いました。調査により館内の虫の発生状況を把握しました。特別収蔵庫のダスト測定を行い、収蔵庫内の環境についても調査しました。



捕獲害虫
ヒメマルカツオブシムシ成虫

◆学校活用の理念と現状

1. 学校教育とみのかも文化の森

(1) 小中学校が博物館を利用する意味

みのかも文化の森・美濃加茂市民ミュージアム（以下「文化の森」と略）は、設立準備段階から市内小中学校の教員で構成する委員会を立ち上げ、学校との連携を重点として進めてきました。すでに平成元年度告示の「小学校学習指導要領の社会」には、「博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行い」とあり、同じく「中学校学習指導要領の社会」にも同文が記されています。そして平成10年度においても、さらに現行の学習指導要領では、各学年の指導計画を作成するに当たって社会、理科、図画工作、美術、そして総合的な学習の時間等に、博物館や美術館、郷土資料館等の見学・調査・活用を図ることが示されています。多くの教科でまた生涯学習の面から、ますます博物館と学校教育の関係が重要になってきました。

これは、「生涯にわたる学びの場」としてミュージアムをとらえ、それを自分の学びへと取り込める人を育てることと重なります。文化の森には人、自然、文化に関する「本物」が収集・展示されており、それらについて調査・研究する学芸員がいます。そして児童生徒にとっては、生涯にわたって学んでいる先輩と言えるボランティアがいます。さらに、その要素を学校と結ぶ学習係がいます。児童生徒がここで具体的に学習したり、人との関わりから学んだりする体験ができるように、組織的に仕組むことによって、学校が意図する学習のねらいを、より効果的に実現させることが可能です。

(2) みのかも文化の森の学習支援体制と設備の特色

文化の森にある様々な資料やボランティア、そして専門の学芸員を活かすことによって、幅広い体験学習と深まりのある学習が可能になります。このような学習は、小中学校が文化の森を計画的・継続的に活用することが前提となります。ここでの学習は、教科学習や総合的な学習の時間のように、学年の年間指導計画（カリキュラム）に位置付いた学習であり、単元の目標を達成するための学習であることが必要です。学校の授業と同様に、また「森の学校」でしかできない授業ができるようにと、学校と文化の森とをつなぐ様々な支援体制をつくってきました。

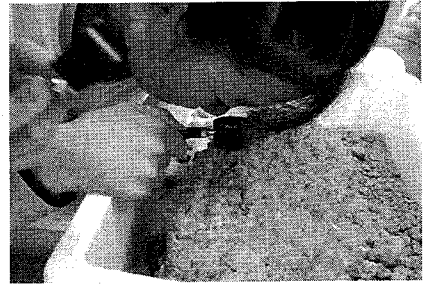


①学校教育活動を具体的に結ぶ文化の森学習係

学校と文化の森との連携を密にし、各教科・領域の年間計画に基づいた単元目標を達成するための計画的・継続的な授業とするために、文化の森には学習係が位置づけられています。学習係長は教育委員会学校教育課との兼務であり、教諭がその職にあります。学習係は現在4名で構成され、学校と

の連絡調整や学習内容の検討、来館した児童生徒の指導等を行っています。

その中で最も大切にしているのは、事前の打ち合わせです。学習のねらいを共通理解し学習内容や時間、担任や学習係学芸員、学習支援ボランティアの役割分担を具体的かつ明確にするために、これは欠かせない営みです。



②教員で構成された文化の森活用委員会

文化の森活用委員会は、併設する教育センターに事務局を置いています。代表学校長を委員長に、市内の小中学校の教諭で構成され、活動プラン作りや自校への活動紹介、活動の評価などを行っています。

③児童生徒を支援する学習支援ボランティア

文化の森では展示ガイド、アート、生活体験、伝承料理、イベント、学習支援の6分野の各ボランティアがそれぞれの活動を支えています。学校活用においては主に学習支援ボランティアが、児童生徒の引率や館内の案内学習の補助などの支援を行っています。現在、主婦・教員退職者・大学生等、31名の登録があり、各自の都合に合わせて活動しています。ミュージアムと児童生徒を、地域で育む大きな原動力となっています。



④学校と森・施設を結ぶバスの運行

文化の森は市のほぼ中央に位置していますが、徒歩で来館して授業時間を十分確保できる学校は1校です。この便宜を図るために準備段階から要望し、導入したのが文化の森専用のバスです。「ぶんぶんバス」と命名されたこの40人乗りのバスは、市内小中学校とみのかも文化の森間の送迎だけでなく、必要に応じてみのかも文化の森と他の施設間の送迎も行っていました。17年度からは、この「ぶんぶんバス」が外部委託になります。

⑤一日過ごせる給食配送設備

事前に予約をすることにより、終日の活動の際には、学校と同様に文化の森でも学校給食をとることができます。保健所と市学校給食センターの指導を得て、給食用ワゴン、冷蔵庫、配膳台等を用意しました。衛生面にもよく配慮をしています。

2. みのかも文化の森における学習の実際

(1) 文化の森で授業を行うプロセス

①学校活用の年間計画

新年度が始まるまでに各学校の利用日を決めておきます。年度末に各学校の利用できる優先日を割り振り、学習係が各学校へ連絡します。同時に学習係は、文化の森の各施設を学校が利用できるように予約しておきます。各学校では教務主任が学校の行事予定を考慮して学習係と調整を行い、新学期を迎えます。

②学習活動のねらいと概要を報告

利用日が近づくと、文化の森でどの教科（領域）でどのような活動を行いたいのか、担任から学習係へ連絡があります。美濃加茂市内の学校は、活動の概略が書き込める活動案テンプレートやバス利用の申請書など、記入して学習係に送ることができるようにネット（逍遙ネット）で結んであり、これを共に活用します。保育園や市外の学校とは、電話やFAX等で連絡を取り合います。

③担任と学習係との事前打ち合わせ

授業のおよそ2週間前に担任は文化の森に来館し、略案をもとに学習係と打ち合わせを行います。時には学芸員も参加し、学習を練り合います。学習のねらいや内容について、双方で準備するもの、バスの送迎時刻、昼食の有無など、学校側と文化の森側とが共通理解を得られるように、じっくりと話し合うようにしています。

④学習活動案（細案）の作成

事前打ち合わせをもとに、学習係が学習活動の細案を作成します。担任の指導を中心としながらも、学芸員や学習係、学習支援ボランティアがどの段階でどのような支援を行うかを明確にし、関係者全員が学習のねらいを共通理解できるように配慮します。活動案は、学校等にはメールで届けるとともに、学習支援ボランティアを含むスタッフにも配布します。

⑤みのかも文化の森での授業

学校と同様、授業を中心に進めるのは担任です。授業の中に学芸員、学習係、学習支援ボランティアが入りTT（ティームティーチング）を行い、実りある授業を心がけています。

⑥1年間の活用をHPや実践集で公開

1年間に行った活動を学年毎にまとめ、さらに文化の森活用委員会や学芸員考案による新プラン、利用したワークシート類を編集して「活用の手引き・活用実践集」を作成します。これが次年度の教員の手引き書となります。文化の森HPでは学習活動の全紹介もしています。

（2）平成16年度 学校活用例

①はじめに

開館4年が過ぎ、イベント的な活動から各校の特色に合わせた継続的な活動へと移行してきました。年間の活用学校はのべ110校余りになり、ここでそのいくつかを紹介いたします。

②たぬきの糸車（小学校1年生 国語）

生活体験館「まゆの家」にて、教材「たぬきの糸車」の朗読を鑑賞しました。板戸や障子など、物語の情景を再現しながら、朗読を聴くことで、一層物語を身近に感じることができます。朗読は「みのかも声のドラマの会」の方をお願いし、児童に朗読の指導もしていただくこともあります。



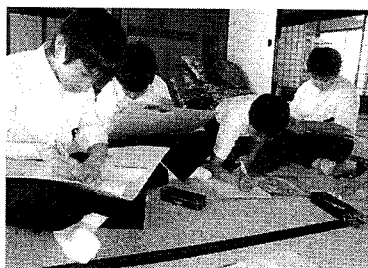
③川の流れと地形の変化（小学校5年生 理科）

美濃加茂市内を流れる川の上流と下流を学芸員とともに見学に行きました。川の流れの違いや石の大きさ、浸食された場所などを見学しました。自然の状態を見学するので水（流水）量の増加などにより見学場所などが変わることもありました。



④地域を知ろう（中学校1年生 総合的な学習の時間）

中学校の活用は文化の森の全体見学、オリエンテーションや講座を全員で受ける活動から総合的な学習の時間の取組へと活用内容が変わってきました。追究テーマ毎に分かれて学芸員、文化の森ボランティアから専門的な話を聞くなど、自ら学ぶ姿がありました。地域の人材や博物館資料などから、自ら関心のあるテーマを見つけ出し、追究する活動となりました。



3. 成果と課題

(1) 成果

文化の森という「博物館」で、どのような活動ができるのか、ということが学校に行き渡ってきたと考えられます。と言うのは、1年間の活動を通してみると先生方が明確な活動のねらいを持ち、「こんなことをしてみたい」という要望がふえてきたからです。また、ボランティアさんからも「こんな活動はどうだろう」「こうするともっと良くなる」という意見もいただけるようになりました。

(2) 課題

「博物館」としての機能を活かせるよう、また「生涯学習」という視点を見据え、資料をどのように発達段階にあわせて、授業に活かしていくのかをさらに検討していく必要があると考えています。

◆教育センター

平成4年に、学校教育だけでなく、家庭社会教育を含めた美濃加茂市の教育の拠点として教育センターが開設されて13年目を迎えました。文化の森に教育センターとの複合施設としてスターとして5年が経過しました。

1. 研 修

(1) 研修講座

平成16年度の研修講座は、4コース（課題研修、教科研修、教養研修、市民参加）で45講座を実施しました。教員の指導力向上を目指して、可茂教育振興事務所学校教育課の指導主事を講師として、国語、社会、算数（数学）、理科、英語の5教科の教科指導講座を実施しました。

可茂地区の教職員にも呼びかけ、市外から多くの教職員の参加がありました。

また、教養研修として「琴の世界」や「陶芸の世界」を実施し大変好評でした。

児童・生徒の学力の低下が懸念され教員の資質が問われる時代となり、教育センターとして果たさなはならない役割がますます増大しています。

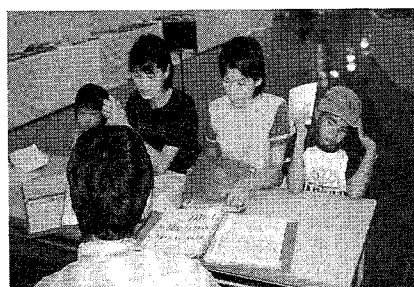
教育講演会は、昨年度に続き、京都ノートルダム女子大学の加藤 明先生を講師として迎え、「確かな学力は確かな指導力から～今実践している授業をどう改革すべきか～」について講演いただきました。分かりやすくすぐに実践に結びつくようなお話や改めて評価の方法について考えさせられました。

また、市民参加の「お月見コンサート」は、今年で5回目を迎えました。今年は志向を凝らし例年演奏いただく笛師田中敏長先生とファンタジー合唱団とともにジョイントコンサートを行いました。毎年このコンサートを楽しみにしている方もおみえになり、およそ100名の方が参加され、幻想の一夜を過ごすことができました。

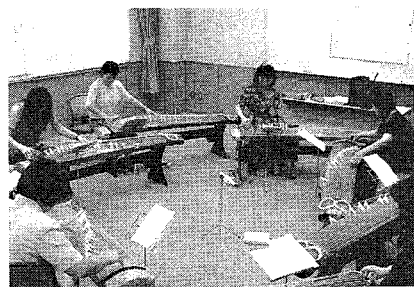
今年度の研修講座等参加者は、市民を含めて約2500名を超えることができました。文化の森で実施した美濃加茂市教育研究会の科学・社会科作品展には、2860名の参加があり、子ども展に2777名の参加があり過去最高の参加者でした。

(2) 教育センター広報「ひびきあい」・「ひびきあい壁新聞」の発行

教育センターの活動をよく理解していただくために、広報紙や壁新聞を今年度も発行しました。広報「ひびきあい」は、センターの活動、学校教育の現状、教育の動向などを内容としました。市内保幼小中教職員、県内外の教育センター等教育機関、市民関係機関等に配布しました。また、「ひびきあい壁新聞」は、中央公民館、中央図書館、福祉センターに掲示し、市内各学校の特色ある教育活動を市民に紹介しました。



【科学作品移動展開催】



【センター講座「琴の世界より」】

(3) 教材・教具・図書資料の貸し出し

図書資料をはじめ、教育センターの所有する教材・教具・資料を紹介し、貸し出しをしました。

2. 教育支援（教育相談・あじさい適応指導教室）

素晴らしい自然と施設そして人に恵まれた「文化の森」へ、あじさい教室や教育相談窓口が移転して5年が終わりました。SSN（スクーリング・サポート・ネットワーク）整備事業は2年目を迎え、可茂地区の4つの支援教室が連携を密にして体験活動を進めました。また、ここ1・2年は来所相談がやや増加し月平均10数件でした。

教育相談

・相談件数等

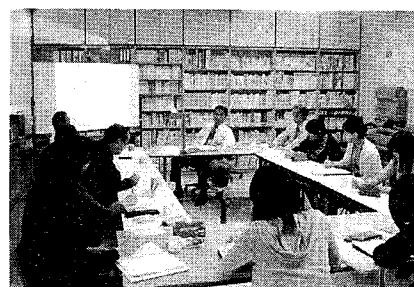
不登校児及び保護者等の教育相談活動やカウンセリングを行いました。電話・来所相談が休日・祭日にも受けられるような体制を今年度もとってきました。次の表がその結果です。内容的には不登校に関することが相変わらず多く、次いで軽度発達障害に関わると思われるもの、友人関係と続きます。

	来室相談		電話相談		家庭相談		学校訪問		合 計	
	H15	H16	H15	H16	H15	H16	H15	H16	H15	H16
件 数	136	127	119	116	234	99	358	312	847	654

・相談員研修会の実施

学校教育相談員等の資質向上の為に、開催しました。

また、今年度から中学校の教育相談主任との懇談会を実施しました。学校の相談態勢や対応方法を検討、充実していく上で大変効果的でした。



【専門家による指導研修】

あじさい教室（適応指導教室）の経営

学校に登校できない児童・生徒をあじさい教室に受入て、学習、生活、体験活動を自主的に行えるよう支援してきました。

スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業（SSN）の指定を受け、可茂地区の4つの適応指導教室が連携して人や自然と触れ合う体験活動を行いました。体験を積み重ねることで、心を開き自信を持って生活出来ることを目指しました。文化の森の自然や施設、そこに集まって来る人々等、人的・物的環境を生かしたプログラムを用意しました。

（主な体験活動）

ア SSN体験活動（宿泊体験・スキー教室等）9回

イ 調理実習（ちらし寿司等）10回

ウ その他、さをり織り・いちご狩り・餅つき等

この1年間に来所した児童生徒は、小学生6人中学生17人計23人でした。年間を通して来所した児童生徒以外に、体験活動のみに参加した者もありました。市内不登校児童生数（年間最多数）は21人なので、来室割合は非常に高いと言えます。年間のべ人数は508人でした。また、



【いも掘り】

1日の最多来室人数は8人でした。今年度学校に復帰できた児童生徒は卒業後の復帰を含めて、小学生2人中学生7人でした。多くの児童生徒が学校に復帰できた事は、教室経営の成果として喜ぶたいと思います。

◆施設の利用状況

1. 月別来館者数

月	常設・企画展	学校活用	教育相談等	貸館・講座等	その他	合 計
4月	2,018	280	285	8,298	1,088	11,969
5月	3,243	651	264	2,859	701	7,718
6月	2,029	530	370	2,995	628	6,552
7月	2,764	417	334	2,690	636	6,841
8月	3,077	25	772	2,146	670	6,690
9月	4,937	350	330	7,826	1,358	14,801
10月	5,799	898	224	9,404	1,706	18,031
11月	4,102	1,299	346	1,991	817	8,555
12月	2,277	738	258	2,641	510	6,424
1月	2,702	449	210	3,132	649	7,142
2月	2,258	433	370	2,624	577	6,262
3月	3,171	178	298	1,937	557	6,141
合 計	38,377	6,248	4,061	48,543	9,897	107,126

※「その他」には観察者等含まれます。

2. 観察状況

月	行政関係	教育・学校関係	その他	合 計
4月	0 回	0 回	0 回	0 回
5月	0 人	0 人	0 人	0 人
6月	0 回	0 回	0 回	0 回
7月	0 人	0 人	0 人	0 人
8月	0 回	0 回	0 回	0 回
9月	0 人	0 人	0 人	0 人
10月	0 回	0 回	0 回	0 回
11月	0 人	0 人	0 人	0 人
12月	0 回	0 回	0 回	0 回
1月	0 人	0 人	0 人	0 人
2月	0 回	0 回	0 回	0 回
3月	0 人	0 人	0 人	0 人
合 計	5 回	51 人	130 人	238 人

※ 行政関係には、官公庁職員、県市町村議会など。

教育・学校関係には、教職員（小中学校、保育園）の研修、家庭教育学級など。

その他には、自治会関係者、民生児童委員、マスコミ関係、サークルなどで他の区分に含まれない団体等をさします。

3. 貸館状況

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
研修室	11	325	9	309	10	346	16	419	11	377	11	397	14	314	6	257	9	250	9	198	16	334	11	242
会議室	18	193	16	234	11	133	17	128	14	188	16	143	23	339	24	263	7	78	17	173	24	190	24	272
工芸室	12	224	7	120	12	327	10	169	10	72	10	190	15	245	10	185	11	130	6	104	12	160	11	157
陶芸室	12	158	14	173	16	203	19	226	11	144	18	214	17	206	11	139	17	202	13	164	17	204	15	174
緑のホール	7	607	11	921	8	463	15	1,339	8	789	9	856	15	844	11	889	6	492	7	640	18	1,475	9	729
アトリエ	0	0	0	0	0	0	1	5	1	9	2	16	4	84	3	92	0	0	1	8	0	0	0	0
調理室	0	0	1	30	0	0	2	35	0	0	0	0	0	0	1	50	0	0	1	30	0	0	1	40
生活体験館	0	0	0	0	0	0	2	120	2	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市民ギャラリー	4	1,616	0	0	1	550	0	0	0	0	1	300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エントランスホール	1	507	0	0	1	480	0	0	0	0	1	400	5	3,397	0	0	1	23	2	1,400	0	0	0	0
展示ホール	0	0	0	0	1	100	1	7	0	0	2	2,010	0	0	0	0	2	250	1	10	0	0	2	23
計	65	3,630	58	1,787	60	2,602	83	2,448	57	1,614	70	4,526	93	5,429	66	1,875	53	1,425	57	2,727	87	2,363	73	1,637

施設の利用回数・人数には文化の森の主催行事は含みません。
また、同じ団体が同じ日に午前・午後・夜間の区分のうち、2つ以上の区分を利用している場合は、当該団体としての利用回数は1回としてカウントしています。

◆来館者アンケートの結果

みのかも文化の森では、企画展開催時に来館者アンケートを実施しました。本結果は下記の日程でおこなった来館者アンケートの7回分をまとめたものです。

・実施日と開催中の企画展名

平成16年 4月29日～ 5月30日	土に残る記憶Ⅱ-縄文と弥生-展
平成16年 6月12日～ 7月19日	第24回岐阜県移動美術館 19世紀西洋版画幻想の世界展
平成16年 7月28日～ 8月28日	まちの観察日記展
平成16年 9月17日～10月24日	「親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2」展
平成16年12月10日～ 1月23日	刻-環流 眞板雅文展
平成17年 2月 5日～ 3月21日	情熱の人 坪内逍遙展
平成17年 3月26日～ 4月10日	地域ゆかりの作家 小林文一展
総回収数324枚	

- | | |
|---|--|
| 1. どちらからお越しですか？ | 5. どなたと来館されましたか？ |
| ☐ 美濃加茂市内 107名 | ☐ 一人で 48名 |
| ☐ 市外（県内） 159名 | ☐ 家族と 213名 |
| ☐ 岐阜県外 45名 | ☐ 友人と 53名 |
| ☐ 不明 9名 | ☐ その他 10名 |
| 2. あなたの年齢は？ | 6. 何回目のご来館になりますか？ |
| ☐ 10代未満 6名 | ☐ 初めて 145名 |
| ☐ 10代 11名 | ☐ 2回目 30名 |
| ☐ 20代 25名 | ☐ 3～5回目 58名 |
| ☐ 30代 113名 | ☐ 6回目以上 91名 |
| ☐ 40代 63名 | 7. 企画展示についてお聞かせ下さい（複数回答可） |
| ☐ 50代 41名 | ・企画展を 何でお知りになりましたか？ |
| ☐ 60代 44名 | ☐ 友人などから 52名 |
| ☐ 70代以上 21名 | ☐ 文化の森の刊行物から 128名 |
| 3. あなたの性別は？ | ☐ 新聞や雑誌などから 48名 |
| ☐ 女性 194名 | ☐ インターネットから 16名 |
| ☐ 男性 118名 | ☐ 他の博物館で 10名 |
| ☐ 不明 12名 | ☐ その他 87名 |
| 4. 文化の森までどのようにして来られましたか？（交通手段ついて、複数回答可） | ・作品や展示資料は満足でしたか？ |
| ☐ 自動車 297名 | ☐ 満足 62名 |
| ☐ 鉄道 7名 | ☐ やや満足 44名 |
| ☐ コミュニティバス 0名 | ☐ 普通 28名 |
| ☐ 駅から徒歩 6名 | ☐ やや不満 26名 |
| ☐ 自転車 7名 | ☐ 不満 1名 |
| ☐ その他 0名 | ・入場料はいかがでしたか？ |
| ☐ 不明 7名 | ☐ 満足 147名 |
| | ☐ やや満足 42名 |

- ☐ 普通 104名
- ☐ やや不満 20名
- ☐ 不満 5名

・展示や解説の内容はわかりやすかったですか？

- ☐ とてもわかりやすい 48名
- ☐ わかりやすい 49名
- ☐ 普通 28名
- ☐ やや説明不足 5名
- ☐ 説明不足 2名

・今回の企画展は楽しかったでしょうか？

- ☐ とても楽しかった 136名
- ☐ 楽しかった 113名
- ☐ 普通 47名
- ☐ ややつまらない 17名
- ☐ つまらない 11名

8. 文化の森へのご意見、ご要望をお聞かせください。

・いろいろ展示物が置いてあって、とてもいいところだと思う。

・初めてきたけど、館内もきれいで展望室の景色がきれいだった。体験できたりしたから楽しかったし、これからもあってほしい。

・展示品を見るだけの展覧会から参加したり体験したりする展覧会に変わってきているのはとてもよいと思います。子どもたちの姿がもっと数多くあるとさらによいのでしょうか。久しぶりにお邪魔して、周りに家が次々に建ち、街になってきたなと感じました。新しい住民に、この土地の昔ながらの意義、伝統などが自然に伝えられたらいいと思います。

・これからも文化の格調高い催し物を期待しています。自然の動植物に関する物等。今回の企画も、もう少し大がかりなもの（資料も含めて）にしたらよかったのでは。

・子どもが遊べるスペースがあり、小さな展示スペースにしては工夫がしてあると思いました。

・今回もそうですが、子どもも楽しめるので大変良いと思います。

・子どもが小六で、今学校にて勉強中です。大変

参考になり勉強になりました。

・ただ遊ぶのではなく、子どもの発想を豊かに出来るので面白かった。

・子どもの体験を重視していてとてもいい施設だと思います。

・催し物の宣伝をもっとすると多くの人が利用できると思います。

・ワークシートなど、展示されている物がわかりやすく、見やすい工夫がされていてとても良かった。

・説明文にもふり仮名があるとよかったです。そうすれば小学生にも読めるし、興味を持って読むのでは。

・平日にイベントを行ってもらえると自営の家庭でも参加できて嬉しいです。

・外からどんな物があるのかわかると入場しやすくなるのではないのでしょうか。

・文化の森の展示などが多くの人たちに受け入れられることを期待しています。なかなか現代人の人たちに文化を広めることのむずかしさを感じています。即物的な見方が横行していますから。でも、地道な活動も、応援している人たちも多いということを信じて活動してほしいと思います。

・子どもにもわかりやすい工夫があると、親子でも来館できそうです。

・関係者の皆様に感謝いたします。多くの資料と写真を見ることが出来て感動しました。美濃加茂市の宝です。大勢の人に関心をもってもらい、多くの人たちに見てもらいたい気持ちです。高校生、とくに文学部演劇部の人は是非みるべきです。

・去年は津田左右吉展に来ました。学者によるシンポジウムもありとてもよかったです。今後も今回のような企画展の関係を期待します。

(主な意見や要望を抽出)

◆広報活動の記録

平成16年度中に掲載された主な新聞・雑誌等についてのまとめ

	掲載紙面	掲載号・日時	掲載内容
新聞関係	岐阜新聞	2004. 4. 2	くらし体験講座「季節を染める(春を染める)」
		2004. 4. 9	くらし体験講座「季節を染める(春を染める)」
		2004. 4.16	森の朗読会
		2004. 4.18	能講座
		2004. 4.20	「春・朗読の一日」
		2004. 4.27	土に残る記憶Ⅱ～縄文と弥生～展
			四季を食べる講座(前期日程)
			アートな1日講座「縄文土器づくり」、「インスタントリトグラフ」、「オリジナルTシャツづくり」、「陶芸」
			夏休み子ども講座
			自然観察会「地層や化石を探ろう!」、「虫の音を聞く会」
		2004. 5.21	アートな1日講座「縄文土器づくり」
		2004. 5.23	土に残る記憶Ⅱ～縄文と弥生～展 紹介
		2004. 6.12	おばあちゃんちのおかってNo. 2 紹介
		2004. 7.20	まちの観察日記
		2004. 7.23	くらし体験講座「真綿づくり」
		2004. 7.30	昆虫観察会 紹介
		2004. 8. 5	まちの観察日記
		2004. 8. 6	森のコンサート「JAZZのタベ」
		2004. 8.25	まちの観察日記「ワークショップ」
		2004. 9. 1	自然観察会「虫の音を聞く会」 紹介
		2004. 9.10	美濃加茂市児童生徒科学作品展・社会科作品展 紹介
		2004. 9.11	美濃加茂支部会発明くふう展 紹介
		2004. 9.17	子ども造形ワークショップ「木で生きものなどをつくる」
		2004. 9.26	お月見コンサート
		2004.10. 2	親子で遊ぶ 木とのふれあいワールドパート2 紹介
		2004.10.11	岡本一平展 紹介
		2004.10.20	まゆの家まつり
		2004.10.30	まゆの家まつり
		2004.11.19	美濃加茂市美術展 紹介
		2004.11.26	朗読フェスティバル
			アートな1日講座「高島純とカレンダーづくり」
		2004.12. 3	朗読フェスティバル
		2004.12. 5	朗読フェスティバル 紹介
		2004.12.10	アートな1日講座「高島純とカレンダーづくり」 紹介
		2005. 1.16	美濃加茂市の50年展 紹介
		2005. 1.21	森のコンサート「マリンバ・デュオ」
			みのかも文化の森 紹介
		2005. 1.23	幕ラシカル道具展 紹介
		2005. 1.26	逍遙ゆかりの地めぐり
		2005. 1.27	四季を食べる講座
		2005. 1.28	情熱の人・坪内逍遙展
		2005. 2. 4	情熱の人・坪内逍遙展
		2005. 2. 8	四季を食べる講座「ひなあられと粕汁」
		2005. 2. 5	情熱の人・坪内逍遙展 紹介
		2005. 2.16	アートな1日講座「まゆびな」 紹介
		2005. 2.18	情熱の人・坪内逍遙展
		2005. 2.27	がんどうち 紹介
		2005. 3. 2	逍遙をしのぶ会 紹介
		2005. 3.11	企画展「情熱の人・坪内逍遙展」関連イベント「ミュージアムフォーラム」
	中日新聞	2004. 4. 1	森の朗読会
			四季を食べる講座「ぶんだこ」
			自然観察会
		2004. 4.15	森の朗読会
			四季を食べる講座「ぶんだこ」
			自然観察会
			ミュージアムツアー
		2004. 4.22	森のコンサート「フォルクローレ」
			アートな1日講座「モザイクタイルアート」
			土に残る記憶Ⅱ～縄文と弥生～展
		2004. 4.29	ミュージアムトーク「土に残る記憶Ⅱ～縄文と弥生～展」解説
			体験講座「つくってみよう・つかってみよう」
			春・朗読の一日

		2004. 5. 9	春・朗読の一日
		2004. 5.13	森の朗読会 ミュージアムトーク「土に残る記憶Ⅱ—縄文と弥生—展」解説
		2004. 5.14	春・朗読の一日 紹介
		2004. 5.27	四季お食べる講座「朴葉餅」 土に残る記憶Ⅱ—縄文と弥生—展 紹介
		2004. 6. 2	もりもりくらぶ結団式 紹介
		2004. 6.17	森の朗読会 四季を食べる講座「利休まんじゅう」 ミュージアムフォーラム「ルドンと19世紀西洋版画」
		2004. 6.22	美濃加茂市民ミュージアム 登録博物館となる
		2004. 7.22	真綿づくり体験 Tシャツプリント
		2004. 8.19	四季を食べる講座「梅料理」 アートな1日講座「陶芸」
		2004. 8.26	自然観察会「虫の音を聞く会」 四季を食べる講座「栗おこわ」
		2004. 9. 3	自然観察会「虫の音を聞く会」 紹介
		2004. 9. 9	くらし体験講座「季節を染める(秋を染める)」
		2004. 9.23	アートな1日講座「七宝焼」
		2004. 9.30	四季を食べる講座「豆料理」 岡本一平フォーラム
		2004.10. 7	自然観察会「キノコ観察会」
		2004.10.21	自然観察会「秋の植物観察会」
		2004.11.11	第8回 朗読フェスティバル
		2004.11.18	四季を食べる講座「おせち料理」
		2004.11.20	美濃加茂市美術展 紹介
		2004.11.25	くらし体験講座「ミニ門松づくり」
		2004.12. 2	アートな1日講座「高島純とカレンダーづくり」
		2004.12. 5	朗読フェスティバル 紹介
		2004.12. 8	アートな1日講座「高島純とカレンダーづくり」 紹介
		2004.12. 9	自然観察会「野鳥観察会」
		2004.12.16	四季を食べる講座「もちつき」
		2004. 1. 7	美濃加茂市市制50年展、写真で見る美濃加茂市50年 紹介
		2005. 1.13	暮ラシカル道具展05
		2005. 1.27	情熱の人・坪内逍遙展 森のコンサート「マリンバ・デュオ」
		2005. 2. 3	情熱の人・坪内逍遙展
		2005. 2.16	アートな1日講座「まゆびな」 紹介
		2005. 2.17	四季を食べる講座「ひなあられ・粕汁」
		2005. 3. 2	逍遙をしのぶ会 紹介
		2005. 3. 3	四季を食べる講座「じねんじょ・むかいご」
		2005. 3.10	ミュージアムフォーラム「演劇にかけた逍遙の情熱」
		2005. 3.17	第39回 森の朗読会 春・朗読の一日 出演者募集 情熱の人・坪内逍遙展 紹介
		2005. 3.24	アートな1日講座「陶芸」
北日本新聞	2004.12.16 42471号		みのかも文化の森紹介、市制50周年記念展
日本教育新聞	2004.9.24		博学連携フォーラム
東海ニュース	2004.7.8 第1071号		蛭とまゆ展04
	2004.8.8 第1074号		森のコンサート「JAZZの夕べ」 自然観察会「地層や化石を探ろう！」 くらし体験講座「季節を染める(夏を染める)」
	2004.9.8 第1077号		親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2展、森の朗読会、子ども造形ワークショップ
	2004.11.8 第1084号		第49回美濃加茂市美術展、第8回朗読フェスティバル、ミュージアムトーク 第8回朗読フェスティバル ミュージアムトーク 第4回ゴールデンアート劇場
	2004.12.8 第1084号		眞板雅文展 自然観察会「野鳥観察会」 森のコンサート 森の朗読会 四季を食べる講座「もちつき」

雑誌関係	ぴあ 中部版	2005.1.18	第1088号	情熱の人・坪内逍遙展 ミュージアムイベント 四季を食べる講座「ぎんなんおこわ」
		2005.3.8	第1093号	ミュージアムフォーラム 朗読「壺験」 ミュージアムトーク 森の朗読会 四季を食べる講座「じねんじょ・むかご」
		2004.5.31	vol.408	土に残る記憶展—縄文と弥生—展
		2004.6.14	vol.409	第24回岐阜県移動美術館 19世紀西洋版画幻想の世界展
		2004.9.6	vol.415	まちの観察日記展
		2004.9.21	vol.416	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2展
	ケイコとマナブ	2004.10.4	vol.417	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2展
		2004.10.21	vol.418	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2展
		2005.1.6	vol.423	刻—環流 眞板雅文展、まゆの家を飾る
		2005.1.20	vol.424	刻—環流 眞板雅文展
		2004.3.25	4月号	小本章ワークショップ展、アートな1日講座「陶芸」、四季を食べる講座「ふるさと料理」
		2004.4.25	5月号	アートな1日講座「モザイクタイルアート」、くらし体験講座「春を染める」 四季を食べる講座「ぶんだこ」
		2004.5.25	6月号	土に残る記憶展—縄文と弥生—展、四季を食べる講座「山菜ごはん」
		2004.7.25	8月号	アートな1日講座「インスタントリトグラフ」、四季を食べる講座「ミウガ寿司」
		2004.8.25	9月号	森のコンサート、アートな1日講座「陶芸」
		2004.9.25	10月号	アートな1日講座「七宝焼」、四季を食べる講座「おはぎ」
		2004.11.25	12月号	四季を食べる講座「手作りこんにやく」
		2004.12.25	1月号	森のコンサート、アートな1日講座「高島純とカレンダーづくり」、四季を食べる講座「もちつき」
		2005.1.25	2月号	森のコンサート、四季を食べる講座「ぎんなんおこわ」
	月間タウン情報ぎふ TJ GIFU	2005.2.25	3月号	情熱の人・坪内逍遙展、四季を食べる講座「ひなあられ・粕汁」
		2005.3.25	4月号	アートな1日講座「陶芸」、四季を食べる講座「じねんじょ・むかご」
		2004.4.25	vol.343	土に残る記憶展—縄文と弥生—展、四季を食べる講座「山菜ごはん・手打ちそば」
		2004.8.25	vol.347	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2展、四季を食べる講座「おはぎ・栗おこわ」
		2004.9.25	vol.348	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2展、四季を食べる講座「豆料理」、 くらし体験講座「秋を染める」、自然観察会「キノコ観察会・秋の植物観察会」
		2004.10.25	vol.349	第49回美濃加茂市美術展、四季を食べる講座「手作りこんにやく」
		2004.11.25	vol.350	第49回美濃加茂市美術展、眞板雅文展、市制50周年記念展、自然観察会「野鳥観察会」 アートな1日講座「高島純とカレンダーづくり」、四季を食べる講座「もちつき・手作り豆腐」
		2004.12.25	vol.351	市制50周年記念展、まゆの家を飾る、作家と語る、暮らし体験講座「たこづくり」、アートな1日講座「作家と遊ぼう」
		2005.1.25	vol.352	情熱の人・坪内逍遙展、市制50周年記念展、暮らし体験講座「たこづくり」、アートな1日講座「作家と遊ぼう」 ミュージアムイベント「逍遙ゆかりの地めぐり・名古屋」 四季を食べる講座「ぎんなんおこわ・ひなあられ・粕汁」、ひな菓子作り・がんどうち
	東海ウオーカー るるぶ岐阜05	2005.2.1	No.3	みのかも文化の森紹介
		2004.9.1		みのかも文化の森紹介
	Musee	2004.9.15	vol.66	博学連携フォーラム～120センチから見た博物館～
		2005.1.15	vol.68	博学連携フォーラム
	博物館研究	2004.6.25	No.6	第24回岐阜県移動美術館 19世紀西洋版画幻想の世界展、ミュージアムトーク、 まちの観察日記展、まちを探索しよう、森の朗読会、カイコの不思議たんけん アートな1日講座「Tシャツプリント」、四季を食べる講座「そうめん料理・ミウガ寿司」
		2004.7.25	No.7	まちの観察日記展、蚕とまゆ展04
		2004.9.25	No.9	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2展、博学連携フォーラム、ミュージアムシアター
		2004.11.6	11月号	第49回美濃加茂市美術展
その他	各務野の風	2005.2.25	3月号	情熱の人・坪内逍遙展
	ふりーむ	2004.1	No.13	みのかも文化の森紹介
	中日新聞「chu-ta」	2004.6.1	6月号	第24回岐阜県移動美術館 19世紀西洋版画幻想の世界展、ミュージアムフォーラム
		2004.8.7	8月号	まちの観察日記展、森のコンサート
		2004.10.2	10月号	まゆの家まつり、フリーマーケット、森の朗読会
		2004.11.6	11月号	第49回美濃加茂市美術展
		2005.1.8	1月号	市制50周年記念展、暮らし体験講座「たこづくり」、アートな1日講座「作家と遊ぼう」 ミュージアムイベント「逍遙ゆかりの地めぐり・名古屋」 四季を食べる講座「ぎんなんおこわ・ひなあられ・粕汁」、ひな菓子作り・がんどうち
	Chat	2004.4.25	5月号	春・朗読の一日
		2004.5.25	6月号	第24回岐阜県移動美術館 19世紀西洋版画幻想の世界展
		2004.9.25	10月号	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2展
		2004.11.25	12月号	第8回朗読フェスティバル、森のコンサート
		2005.1.25	2月号	情熱の人・坪内逍遙展

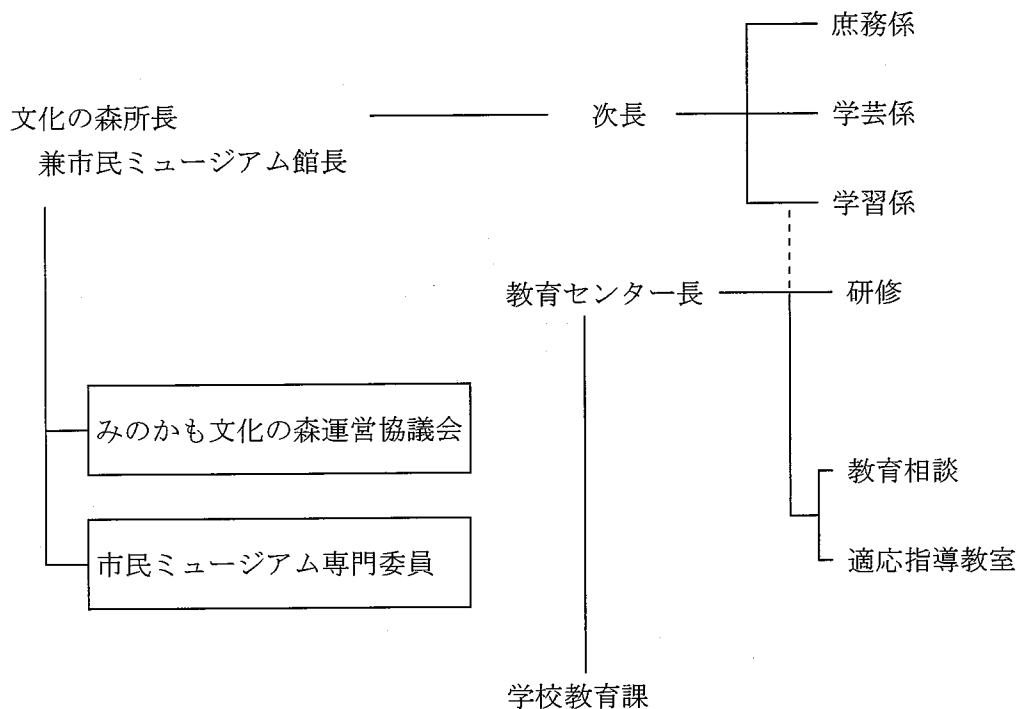
かにさんくらぶ	2004.4.27	5月号	土に残る記憶Ⅱ展－縄文と弥生－展、春・朗読の一日、ミュージアムツアー
	2004.5.27	6月号	第24回岐阜県移動美術館 19世紀西洋版画幻想の世界展
	2004.12.27	1月号	みのかも文化の森紹介
	2005.1.27	2月号	情熱の人・坪内逍遙展
	2005.2.25	3月号	情熱の人・坪内逍遙展
どーなっつ	2004.4.1	第16号	アートな1日講座「モザイクタイルアート・縄文土器づくり」
	2004.7.1	第17号	まちを探索しよう
	2004.10.1	第18号	アートな1日講座「高島純とカレンダーづくり」、くらし体験講座「ミニ門松づくり」
	2005.1.1	第19号	くらし体験講座「たこづくり」、ひな菓子作り「がんどうち」、アートな1日講座「陶芸」
ラン・タン	2004.4.1	第17号	アートな1日講座「モザイクタイルアート・縄文土器づくり」、四季を食べる講座「手打ちそば」
	2004.7.1	第18号	アートな1日講座「Tシャツプリント」、自然観察会「地層や化石を探ろう」 くらし体験講座「夏を染める」、四季を食べる講座「おはぎ」
	2004.10.1	第19号	ミュージアムシアター、まゆの家まつり、くらし体験講座「冬を染める」 自然観察会「秋の植物観察会」、アートな1日講座「高島純とカレンダーづくり」
	2004.12.1	第20号	自然観察会「野鳥観察会」、アートな1日講座「陶芸」、四季を食べる講座「もちつき」 くらし体験講座「たこづくり」、ひな菓子作り「がんどうち」
はじめのいっぽ	2004.4.1	第10号	アートな1日講座「モザイクタイルアート・縄文土器づくり」、四季を食べる講座「手打ちそば」
	2004.7.1	第11号	まちを探索しよう、くらし体験講座「夏を染める」 四季を食べる講座「おはぎ」、自然観察会「地層や化石を探ろう」
	2005.1.1	第13号	くらし体験講座「たこづくり」、ひな菓子作り「がんどうち」、アートな1日講座「陶芸」
ぼけっと	2004.5.1	第12号	春・朗読の一日、森の朗読会、つくってみよう・つかってみよう－縄文人体験－ アートな1日講座「インスタントリトグラフ・縄文土器づくり」
	2004.7.20	第13号	アートな1日講座「Tシャツプリント」、くらし体験講座「秋を染める」
	2004.11.1	第14号	四季を食べる講座「手作りこんにやく」、ひな菓子作り「がんどうち」、獅子芝居公演会
	2004.3.1	第15号	四季を食べる講座「ぶんだこ」
JOGG	2004.7.20	第20号	アートな1日講座「Tシャツプリント」、自然観察会「地層や化石を探ろう」

◆みのかも文化の森/市民ミュージアム5年の歩み (2000年10月～2005年3月)

年	月 日	できごとなど
2000年 (平成12)	10月1日	「自然との共存」「学校教育との連携」「市民参加」「地域づくり」を理念としてみのかも文化の森がオープン。オープニングを「森の豊穣祭」と題し、アートフラッグの披露、伝承料理の試食、市民制作の舗道ブロックの設置、ダボ市とのメール交換、ぶんぶんパスの発着セレモニー、管弦楽コンサートなど多彩な催事を実施。
	10月1日	美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅰ「芸術と自然ー若林奮・大久保英治・山口啓介 美濃加茂自然環境会議2000」(～10/29)を開催。
	10月1日	野外劇「真夏の夜の夢」(シェークスピア作・坪内逍遙訳・根本嘉也脚本演出)を上演。根本が地元出演者の指導を行う。
	10月1日	文化の森のボランティア通信「つばらじい」第2号が、ボランティアによる編集委員会から発行(第1号は6/20)される。ボランティアは展示ガイド、生活体験、アート、学習支援、伝承料理の5つで、12年度の登録は127名。
	10月11日	小中学校による博物館の学習活用が始まる(太田小学校)。
	10月14日	山口啓介ワークショップとして身近な植物を入れたカセットケースがエントランスホールガラス面に展示(1677個)される。
	10月19日	「ケロポンズ親子コンサート」が、市民による親子コンサート実行委員会により開催される。
	10月21日	「自然を考える」をテーマに河合雅雄・若林奮の対談が行われる。
	11月8日	美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅱ「村絵図と日本図ー古地図から景観が今、よみがえるー」(～11/19)を開催。
	11月11日	第4回朗読フェスティバルを緑のホールで開催(11/12、11/18、11/19も開催)。
	11月11日	第1回「まゆの家まつり」を、文化の森のボランティアが実行委員会を結成して開催(～12日)。以降毎年開催。
	11月23日	第45回市美術展が開催。特別に「文化の森オープン記念賞」が設けられる。
	12月2日	アートボランティアにより南駐車場のシの木にクリスマスイルミネーション設置。
	12月8日	美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅲ「高島純展」(～12/24)を開催。
	12月13日	ボランティア研修の一環で、「ヨーロッパのエコミュージアムを見る」(講師/糸魚川淳二)講演会開催。
2001年 (平成13)	1月20日	ミュージアムフォーラム「美濃の弥生時代」(講師/赤塚次郎)開催。
	1月28日	エントランスホールで「NHK趣味の園芸」の収録が行われる。
	2月3日	第1回ミュージアムシアター「ロミオとジュリエット」上映(坪内逍遙博士顕彰会主催)。
	2月10日	美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅳ「親子の対話 岡本一平・岡本太郎展」(～3/25)を開催。
	2月17日	講演会「近代漫画史における岡本一平」(講師/清水勲)開催。
	2月24日	公開シンポジウム「インターネットで博物館を利用しよう」を開催(～25日)。
	3月17日	講演会「岡本太郎を語る」(講師/仲野泰生)開催。
	4月14日	「生活絵巻による高橋余一のまなざしーよみがえる明治から昭和ー展」(～5/13)を開催。
	4月29日	第1回「春・朗読の一日」が市民による実行委員会により開催される。以降毎年開催。
	5月5日	美濃加茂ライオンズクラブよりカリヨンが寄贈され、実習棟南に設置。
	5月13日	「森の体験講座」が始まる。15年度には「里山体験塾」、17年度には自主団体「もりもりクラブ」へと発展する。
	5月19日	第1回森のコンサート「ホルン五重奏」を開催。以降毎年数回、森のコンサートを開催。
	6月5日	「渡辺泰幸展」(～6/24)を開催。
	6月10日	「民具の達人」第2回認定(第1回目は2000年1月に実施)される。以降不定期に認定。
	6月23日	第1回「文化の森ボランティア交流会」を開催。以降毎年開催。
	6月24日	渡辺泰幸ワークショップ「ー土を焼いて音をつくるー」を開催する。7月28日には永田砂知子による作品演奏会実施。
	7月20日	「クワガタ・カブトムシ見つけた!展」(～9/2)を開催。
	8月7日	博物館実習実施(～8/11)。以後毎年実施。
	8月12日	カリヨン演奏会「カリヨンのタベ」を開催。
	8月21日	大北利根子「森の中のインスタレーション」公開制作(～8/26)。
	8月25日	レーチェル・カーソン「センス・オブ・ワンダー」を上映。
	9月5日	ボランティア研修会で名古屋美術館を訪問し、ボランティア相互の交流を図る。以後随時視察研修実施。
	9月15日	「森の朗読会」が、みのかも「声のドラマ」の会により始まる。以降毎月(11月を除く)開催。
	9月22日	「文字の登場、そして広まりー古代中世の人々と文字をめぐるー展」(～10/28)を開催。
	9月30日	ミュージアムフォーラム「古代の人々と文字」(講師/平川南)を開催。
	12月8日	講座から発展したグループ「オリーブの実」が初めて作品の展示会を開催する。
	12月8日	「野外彫刻とその制作展」(～2002.1/27)を開催。
	12月22日	第1回アートボランティアビデオ上映会「議事堂を梱包する」が開催される。以降ゴールデンアート劇場として毎年開催。
	12月27日	生活体験館東に体験工房(染色)が完成する。
2002年 (平成14)	1月13日	「岡本一平漫歩史料展」(～1/27)が実行委員会により開催。
	1月16日	「暮らしカル道具展」02(～2/17)を開催。以降毎年開催。
	2月9日	「川崎小虎展ー暖かみあふれる自然の詩情ー」(～3/24)を開催。
	2月9日	「文化の森へ桶師がやってきた」を実施し、桶を直す実演を行う。
	2月10日	講演会「小虎芸術を探る」(講師/平光明彦)を開催。
	2月17日	ミュージアムフォーラム「美濃加茂周辺における中世城館について」(講師/高田徹)を開催。
	3月31日	『美濃加茂市民ミュージアム紀要』第1集を発行。以降毎年発行。
	4月1日	従来まで文化の森所管であった美濃加茂市教育センターが学校教育課所管となる。
	4月13日	「スマイルはスマイル展ーみのかものスマイルー」(～5/6)を開催。
	4月28日	太田三郎ワークショップ「森のポストカード」を実施(10/13にも実施)。
	6月8日	「気持ちの宝物 椎名誠写真展」(～7/14)を開催。
	6月16日	椎名誠講演会「風まかせ写真館」開催。

年	月 日	できごとなど
2003年 (平成15)	6月20日	「蚕とまゆ展」02(～8/4)が開催される。以降毎年開催。
	7月11日	ミュージアムシアター「こどもの時間」が、市民実行委員会により開催される。
	7月24日	「発掘された尾崎遺跡 ーこの地に人が残したものー 展」(～9/1)を開催。
	8月18日	ミュージアムフォーラム「須恵器からみた古代の尾崎遺跡」(城ヶ谷和広・渡辺博人)を開催。
	9月14日	「ミノ」「カモ」の古代 ー御野国戸籍から1300年ー 展」(～10/14)を開催。
	9月20日	「太田三郎展」(～10/27)を開催。
	10月6日	ミュージアムフォーラム「戸籍が語る702年の「ミノ」「カモ」を開催(講師/新川登亀男)。
	10月19日	「太田三郎ワークショップ展」(～10/27)を開催。
	11月8日	ミュージアムフォーラム「交流する博物館」(講師/久保禎子)を開催。
	11月23日	伝承料理の会により『おばあちゃんちのおかって』(第1集)を発刊。好評につき2003年12月第2集を発刊。
	12月14日	「小川博史展」(～2003.1/26)を開催。
	12月17日	常設展示室の入場者が開館以来10万人に達する。
	2月8日	「色と形と冒険ー坂井範一とゆかりの作家展」(～3/23)を開催。
	2月11日	講演会「坂井先生とふるさと」(講師/御宿正司)を開催。
	2月22日	ミュージアムフォーラム「旧石器時代ー縄文時代初頭期の社会と文化」(講師/白石浩之)を開催。
	3月1日	みのかも「声のドラマ」の会により坂井範一『随想』朗読。
	3月31日	『みのかも文化の森植物ガイドブック(春のⅠ)』を発刊。
	4月3日	地域ゆかりの作家シリーズⅠ「座馬井邸展」(～4/13)を開催。
	4月23日	「土に残る記憶Ⅰー旧石器と縄文ー 展」(～5/25)を開催。
	5月10日	ミュージアムフォーラム「戸入村平遺跡の発掘調査」(講師/坂東肇)を開催。
	7月10日	「美濃加茂にサイやゾウがいた頃展」(～8/31)を開催。
	7月17日	書家・座馬井邸氏より作品27点の寄贈をうける。
	8月9日	講演会「発見・なぜ解き・復元」(講師/糸魚川淳二)及びシンポジウム「瑞浪層群の古環境」を開催。
	8月16日	小本章ワークショップ「自然の色をさがそう」を行う(11/1にも実施)。
	9月6、7日	学習支援ボランティアの企画により「森の音づくり」を開催。
	9月14日	展覧会企画「美濃の地芝居を観る」として東白川村歌舞伎の見学ツアーを実施。
	9月17日	第22回岐阜県移動美術館「中川ととも坪内節太郎 ー芝居絵の世界 展」(～10/26)を開催。
	10月5日	ミュージアムフォーラム「中川ととも坪内節太郎の芸術」(講師/岡田潔)を開催。
	11月3日	「秋のもりもり劇場」で、市民で構成される4団体が人形劇を競演。
2004年 (平成16)	1月10日	「写真で見る昭和の風俗展」(～2/1)を開催。
	2月1日	イベントボランティアが6つ目のボランティア組織として発足する。
	2月8日	「小本章展」(～3/21)を開催。
	2月8日	「津田左右吉 ーその人と時代ー 展」(～3/21)を開催。
	2月15日	ミュージアムフォーラム「津田左右吉とその時代」(講師/今井修)を開催。
	2月29日	ミュージアムフォーラム「縄文時代の年代と時代区分」(講師/山本直人)を開催。
	3月7日	シンポジウム「今、改めて津田左右吉を問う」を開催。
	3月13日	「小本章ワークショップ展」(～3/21)を開催。
	3月31日	生活体験ボランティアにより『昭和のくらし体験集Ⅰ』が発刊される。2004年11月には第2号を発刊する。
	4月29日	「土に残る記憶Ⅱー縄文と弥生ー 展」(～5/30)を開催。
	5月8日	展示ガイドボランティアによる企画「ミュージアムツアー・石器の材料をさがす」を実施。
	5月27日	俳優・加藤道子氏(故人)の義妹・孝子氏より道子のラジオドラマ台本などの資料の寄贈をうける。
	6月12日	岐阜県移動美術館「19世紀西洋版画幻想の世界展」(～7/19)を開催。
	6月20日	ミュージアムフォーラム「ルドンと19世紀西洋版画」(講師/山本敦子)開催。
	6月21日	博物館法に基づく「登録博物館」に認定される。
	7月4日	「まちの観察日記展」に関連し、「まちを探検しよう」と太田本町周辺を歩く。
	7月28日	「まちの観察日記展」(～8/28)を開催。
	8月1日	ミュージアムフォーラム「おどろくココロ」(岡本信也・斉藤基生)を開催。
	9月17日	「木とのふれあいワールド」(～10/24)を開催。
	10月9日	ミュージアムシアター「トントンギョギョ図工の時間」が、市民実行委員会により開催される。
	10月19日	「博学連携フォーラム」(市制50周年記念事業)を開催(～20日)。
	10月24日	稲本正(オークヴィレッジ代表)「木の力、人の技」講演会開催。
	10月31日	「フリーマーケット」が、文化の森の講座から生まれたサークルとボランティアにより開催される。
	11月1日	「写真で見る美濃加茂市50年」(市制50周年記念事業)が刊行される。
	12月8日	眞板雅文公開制作「美濃加茂を飾るー森の抄」始まる(～12/15)。
	12月10日	「刻ー還流 眞板雅文展」(～1/23)を開催。
2005年 (平成17)	2月5日	「情熱の人・坪内逍遙展」(市制50周年記念事業、～3/21)を開催。
	2月27日	「逍遙ゆかりの地めぐり・名古屋」(講師/林和利)を実施。
	2月27日	鈴木瑞枝氏より津田左右吉宛書簡13通の寄贈をうける。
	3月13日	ミュージアムフォーラム「演劇にかけた逍遙の情熱」(講師/菊池明)を開催。
	3月26日	地域ゆかりの作家シリーズⅡ「小林文一展」(～4/10)を開催。
	3月30日	文化の森ホームページのアクセス数が10万件に達する。

◆みのかも文化の森の組織図



◆利用案内

開館時間 9:00～17:00（ただし、催事等があるときにはその部分のみ22:00まで開館）

休館日 市民ミュージアム 毎週月曜日（ただし、祝日の場合は開館し、翌日休館）
第4火曜日、年末年始

教育センター 土・日曜日、祝日、年末年始
（ただし、教育相談は土・日曜日、祝日も実施）

駐車場 北駐車場10台、東駐車場54台、南駐車場110台

交通 鉄道 / JR名古屋駅から美濃太田駅まで特急で40分
美濃太田駅北口から徒歩約17分
自動車 / 東海環状自動車道美濃加茂ICから約5分

みのかも文化の森 年報

(平成16年度)

編集・発行 みのかも文化の森

2005年10月31日

〒505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1

電 話 0574-28-1110

F A X 0574-28-1104

<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

印 刷 サンメッセ株式会社

